

# 2006 大阪 日雇・野宿労働者の闘い

～自由労働者／持たざる者／底辺下層からの反攻～

(2005. 8～2006. 7)



高齢者特別就労組合(準)編



2006 大阪 日雇・野宿労働者の闘い  
～自由労働者／持たざる者／底辺下層からの反攻～  
(2005. 8～2006. 7)



目次

★ 基調

★ 特就労活動年誌

★ 特就労ニュースから一年をふり返る

府・市夏期要求／夏祭り／持たざる者／ソフトボール／全大阪越冬／反強制排除／新年度登録／映画『ノガダ／土方』／メーデー／特就要求署名

★ 社会的排除に抗するわが階層の闘い

1・30靱・大阪城公園行政代執行／抗議声明／靱公園自治会／大阪市職員・従業員へ／天王寺公園事務所押しかけ／世界パラ会議抗議行動／野宿者に住民登録を！山内訴訟／強制撤去賠償訴訟

★ 釜ヶ崎パトロールの会 週刊紙『釜バト通信』等より

(編集後記)

一昨年の釜ヶ崎夏祭りの時に発行した『特就労の闘い』、昨年の『2006 大阪日雇・野宿労働者の闘い』に引き続いて今年も一年間の取り組みを通覧するパンフを何とかまとめることができた。今回の資料集は『特就労ニュース』と失業と野宿を考える実行委員会が発行したビラや声明類を軸に、『釜バト通信』や越冬闘争のビラのいくつかをを重ね合わせることで、大阪の日雇・野宿労働者の闘いの全体像を浮かび上がらせるものとした。また、巻頭の基調は1999年末に始動した特就労(準)を草創期から引っぱっている一老令同志の手になるものである。今年も時間におわれて資料やビラ等をじゅうぶんに収集できなかったことは悔やまれる。大阪の日雇・野宿労働者運動の今後の発展のために、討議・研究資料として活用していただけることを切に願う。(M)

【編集】高齢者特別就労組合(準)

## ★ '06. 8. 特就と野宿労働者の現在点 (基調にかえて)

### I) 「交付金打ち切り」より1年半

1992年「釜ヶ崎就労と生活保障“制度”実現をめざす実行委員会(反失連)」に結集する700人以上の労働者の激しい失対要求闘争・センター占拠闘争で、'94年末大阪ではじめて“高齢者失対”がカチとられた。「釜ヶ崎地区清掃20人」「センター清掃20人」ではじまってから早12年になる。

国の「一次金交付」導入で1日140人となり、「ホームレス特措法」と抱き合わせ(ペテン)の「二次交付金」導入で'02年～'04年、1日250人で実施されたがコイズミ新自由主義ヘゲモニー強化の中'04年「交付金打ち切り」が全自治体の反対を押し切って強行された。高齢者特別就労組合準備会——以後「特就労(準)」と略——は厚生労働省の「交付金打ち切り・特就打ち切り」に対して署名を軸に東京の仲間と共に対厚生労働省闘争を闘い、府市責任での'05年度180人、'06年度200人と、継続はかちえている。しかし、厚労省・府市は「失対はやらない」「地域民間産業創出」による雇用吸収(=差別・選別・切捨て=「再チャレンジ」)に路線統一、大阪においても「特就縮小」「自立支援センター」「ホームレス就労支援センター」による民間吸収を政策として「公言」してはばからない。とはいえ、近畿の雇用状況が「好況」宣伝にもかかわらず「失業率」4.8%から5.3%に、「そう労働時間」が一貫して減少する中で、この「政策」は更なる「スクラップ再編」「失業者・半失業者切捨て強化」となることは疑いの余地がない。「野宿・日雇い高齢者」への「特別失対就労制度」本格化の闘いが今こそ「正念場」に入ったのである。

### II) センターの「現金求人微増」「飯場求人急増」をあてこむ労働者再編(ビルト&スクラップ)

中部地方を中心に自動車・情報・電機産業を軸にグローバル産業が強化、首都圏、そして近畿圏も大企業中心の再編が進み、路線価の再上昇、マンション投資バブルも資源と共に兆候し、工場・住宅にわたって建設需要が回復している。この中で、全国的には「派遣・偽装請負」によるケタオチ条件での若年層建設労働者使い捨てが強化されている。「大阪建労法の遺制(?)」は、その補完として「偽装請負役」を担い、「飯場求人」を伸ばし、野宿者収容の一役をかつている。求人総数は3年間で倍増しつつも、日雇い雇用保険は4700人にまで「とり上げ解体」が進んだままである。この「使い捨て・使い殺しの強化」が(国などの)政策方向であれば、なおのこと「求人増が特就縮小の口実」とはならず、なおさらに「特就の仕事領域・就労形態拡大を含む特就堅持拡大」を迫らねばならない。

### III) ホームレス特措法5年目(中間総括と転換点)―「野宿者一掃」(最終的「排除」「収容」「抹殺」の強化)

- '01年 長居シェルターによる園内450テント解体(6戸から25戸へ反撃)
- '02年 西成シェルターによる100テント解体(100戸防衛)
- '03年 大阪城シェルターによる650テントから100テントへの解体
- '04年 市内全域・府下テントへの攻勢
- '05年 西成シェルター閉鎖に伴う同園全面排除攻勢(共同戦線再構築・全国支援による70戸防衛。秋より「バラ会議」などをたてに韮公園45戸への攻勢)
- '06年 1月30日、韮22戸、大阪城5戸への「行政代執行(強制排除)」

'02年の「ホームレス特措法」より5年の激しい野宿者排除の結果、1万人超の市内・府下の野宿者が5000人以下に、4000件以上あったテントが800件くらいにまで排除された。バブル崩壊以来15年間の流入・排除の総数はその倍にもなるだろう。府市は5年間で「約3000人を自立支援センターに収容し、その半数を自立させた」と発表し、「シェルター・自立支援センター」による「自立支援主義路線」の継続をもくろんでいる。その本質は「差別・選別・スクラップ」である。それは100%テント潰しのための狩り込みであったが、就労自立し、アパートに定着した労働者は一人もいない。野宿者の見た目の減少は、まさに排除の果ての死滅(行路病死・入院死亡)や周辺への拡散などによる不可視化であって、より不況の地方に帰省する人は極少だろう。「65歳以上の生保」を西成区ではひらいたが、市内府下での「住居無きものは生活保護もない」運用の建前、生保拒否の壁は変わっていない。一部NPOや医療連、他の民間ボランティア、それらをはるかに超える数のヤクザブローカーの吸血保護を含めても、地域貧困化による生保世帯数のほんの一つまみに過ぎない。(そこへ政府は生活保護制度そのものへの換骨奪胎攻撃をはじめている)「大阪初の公園テント強制排除(行政代執行)」と「全国結集での反撃」戦後の現在、政府、府市は「自立支援政策」も「ホームレス特措法」も「馬脚をあらわしてしまった」現在、「生保のクズシ運用」とか、東京では「排除吸収は出来たが就労自立不」で失策」となったアパート移行事業とか「地域吸収型」とかの「策を練り直し」「新たな勢い」で最終的なテント潰しはおろか、路宿も出来なくするまでの「野宿者一掃」の準備に入っているという段階である。

## 特就労(準)活動年誌

### 2005年

8月10日 大阪府・市に対して『野宿者対策ならびに特別就労事業等に関する要望書』を提出

8月13～15日 第34回釜ヶ崎夏祭り

アルミ缶回収に従事する野宿労働者を応援する意味から、2001年の夏祭りから特就労(準)としてアルミ缶交換所を運営し、1kg=200カマで交換。持たざる労働者が夏祭りに参加できる契機を作ってきた。また、アルミを大量に集めきれない高齢者や病気や障がいを抱える最下層の仲間も参加できるように、アルミ缶20個=チューハイ・チヂミ券(特就券)を発行した。この年、夏祭り実行委よりアルミ缶交換の負担補助の申し出があり、受け入れることにした。3日間で約800kgのアルミ缶を交換。延べ200～300名の仲間が交換に訪れた。この年は、一昨年に引き続いて薩摩焼酎・泡盛・チューハイとチヂミ赤字覚悟の格安販売を実施。特就労(準)の出店の前は、常に野宿労働者の喧騒と笑顔であふれていた。そのほか、パンフ『大阪野宿労働者の闘い 2005』や朝日建設争議などの闘争報告など好評を得た。

8月20～21日 第8回大阪キタ夏祭り(扇町公園)

9月17～18日 第2回大輪祭り(長居公園)

9月25日 ウトロ緊急集会

10月18日 藤本彰男さん虐殺10ヶ年

10月26日 特就登録者懇談会

①来年度特就にむけ、②西成公園、靱公園への排除攻撃、③学習会「増大する持たざる者とその闘い」を行い、映画『どっこい、生きている』を上映。

11月5日 団結ソフトボール大会 in 西成公園

野宿者の連帯のために、東京・名古屋・大阪の仲間たちが結集する恒例行事。大阪からは長居、扇町、靱、西成・特就労、名古屋など5チームが出場し、ソフトボール大会のあと、各地の交流会を催し、ともに闘いを強化しようと誓った。

11月6日 「持たざる者」の関西連帯集会

新自由主義グローバリゼーションと戦争は日雇・野宿をはじめとする広範な底辺下層の「持たざる者」をますます生み出し、苦境へと追いやってきた。その最も虐げられてきた者の立場から、社会的排除に抗して、もう一つの世界をめざす取り組みもはじまっている。関西でもその狼煙をあげるべく初めて開催され、約70名の参加者を得た。

11月27日 いっしょに生き抜く大集会・釜ヶ崎デモ

12月21日 全大阪越冬闘争前段集会(第7回特就登録者懇談会)

①全大阪越冬闘争の提起。②全港湾、釜ヶ崎地域合同労組、失業と野宿を考える実行委からの連帯アピール。③排除攻撃と闘う5つのテント村からの報告。④『特就労・全大阪越冬統一要求書』討議。⑤映画『73～74 釜ヶ崎越冬闘争』『釜共闘の闘い』上映。

12月28日 全大阪越冬闘争突入集会

野宿者みんなにテントを！テント村を野宿者みんなの寄り場に！を合言葉に、センターをわっしょい行進したあと、扇町公園で突入集会を開催。約100名の仲間とともに市庁へデモ行進し、越冬統一要求書『越年越冬および通年の要求』を提出。同時に、府・市の野垂れ死に政策に抗して、各テント村を拠点とした全大阪越冬闘争への突入を宣言。

### 2006年

1月5日 靱・大阪城公園で代執行手続きを開始。

1月7日 靱公園団結餅つき大会

1月11日 西部・東部の各公園事務所へ押しかけ抗議行動

1月15日 日雇全協山谷総決起集会と隅田川公園交流会

1月27日 野宿者に住民登録を！山内訴訟地裁勝利判決と反排除全国集会・デモ

1月30日 靱・大阪城公園で行政代執行

ふたつの公園に対して大阪市職員・ガードマン・機動隊1000名以上が動員され強制排除。靱公園では団結小屋を中心に、全国各地より集まった150名以上の仲間がスクラムを組み、負傷者を出しながらも6時間以上にわたって闘い抜く。その闘いの最中に靱公園自治会会長Yさんが逮捕。さらに大阪市は、前日に扇町公園に建てられた靱公園の仲間の緊急避難用のテントを強制撤去し、西成公園ではテント周辺にバリケードを構築するという暴挙をおこない、その後も熾烈な攻防が闘われた。

2月26日 反WTO闘争弾圧救援会の報告集会

3月1日 第8回特就登録者懇談会

①行政代執行に対する闘争のビデオ報告とこれからの闘いの提起。②3月14日から始まる特就新年度募集への取り組み。

3月8日 第9回特就登録者懇談会

特就署名『大阪府・市高齢者特別就労事業への要望』を集めることを決めた。内容は、特就拡大を中心軸としながら、登録条件を50歳以上に引き下げ、秋の再募集を求めた。また、悪質福祉ピンハネ業者による生保被害者が特就で働いていかざるを得ない状況を想定し、生活保護受給者を一律排除するための「一律同意書」の撤回をつよく求めるものである。

3月14日～4月27日 新年度特就登録募集期間

センター3階での連続机だし登録相談会/特就署名活動

3月24日 韓国ドキュメンタリー映画『ノガダ/土方』三角公園上映会

日韓の日雇・野宿者の闘いのドキュメンタリーを映画化したキムミレ監督の作品を、監督の強い希望のもとに釜ヶ崎で日本初上映。約200名の労働者が鑑賞。キムミレ監督も来日し、上映会の後に全港湾事務所で監督を囲んで交流会を開催。

5月1日 日雇・野宿労働者メーデー

すべての底辺下層の労働者の団結を訴え、中ノ島の全労協メーデーに日雇・野宿労働者約30名の隊列で参加。前段集会のあと、全港湾による大林組押しかけ抗議行動へ参加した。再びメーデー会場へ戻って西梅田公園までデモ行進し、現地で交流会を催して熱い一日を終えた。

5月5日 釜島団結ソフトボール大会 in 鶴舞公園

長居、扇町、大川の仲間17名が名古屋の仲間とともに汗を流し、団結を暖めた。

5月8日 対天王寺公園事務所抗議行動

5月11日～12日 世界パラ会議抗議行動(反排除全国集会・デモ)

5月24日 第2回特就登録者懇談会

①今年度の闘いと組合結成について。②要望署名提出方針。③映画『あたりや大将』上映

5月26日 大阪府・市へ特就要望署名提出・団体交渉

交渉中にYさんの保釈が決定したとの知らせを受け、釜ヶ崎で歓迎会。

6月15日 東アジア会議反対！ブラジルの1000家族の強制排除策動を許さない世界同時行動

6月21日 臨時学習会

6月21～24日 沖日労連帯ツアー

6月24～25日 第23回全国地域・寄せ場交流会

6月28日 第3回特就登録者懇談会

7月5日 No-vox 関西交流集会「持たざる者」の抵抗—日本とフランス—

7月26日 くらばってたまるか！いっしょに生きぬこう！暑中映画会(第4回特就登録者懇談会)

大阪市の野宿者対策ならびに特別就労事業等に関する要請書

国は完全失業率の全国平均の「改善」(※04年度 4.7%、現在 4.4%)を根拠に、「緊急雇用交付金」を今年度から廃止した。しかし、府・市では産業空洞化が進み、6~8%の高失業率を保っている。そして、この「完全失業率」にすら計上されない仕事にアブレた日雇労働者やフリーターなどの不安定就労層が膨大に存在し、その周縁には、路上や公園で野宿者が自力自闘で懸命にアルミ缶やひらい仕事で働き生きている。我々、「大阪府・市高齢者特別就労事業」(以下、「特就」とする)登録労働者2890名の収入の大部分を占める輪番就労が今年度から1日191名に減少し、月々3~4回当たっていた就労日数が2~3回に減少した。アルミ缶回収を副業に持つものも、年々アルミ缶が集まりにくくなっていると訴えているとおり、生活がたいへん苦しくなっている。特就の月収10800~16200円ではドヤ宿泊はおろか、健康を維持する食事すら取れない。こうした夜間シェルターとカンパンに並ばざるを得ないような仕事の出し方は、断じて糾弾に値する。

こうした野宿者を先端部分とする膨大な失業者、半失業者、不安定就労層を生み出したこの大阪の「産業空洞化失業」は、ハイテクなどのグローバル資本に占領された府・市経済政策の結果である。松下、早川、サンヨー、NTT など情報ハイテク部門は、立地・労働力の安い海外移転や地方移転を進め、それに伴って工場閉鎖も進んだ。タケダ、フジサワなどグローバル製薬資本と化学工業が市大病院などの大病院と結合し、「医療、ハイテク、化学の結合」をグローバル新戦略産業と位置づけようとしてきた。この空洞化構造が生み出した失業問題を「国際集客都市」構想で打開しようとするのが府・市の経済政策のようであるが、「観光」や「サービス」などで埋め合わせできるものではない。

大阪の失業問題が資本のグローバリズム構造に起因しているが故に、国のみならず府・市には失業対策責任がある。グローバル新戦略産業を変えられないなら、なおのこと、「失対特区」とでも呼び得る視点が必要なのであり、「失対特区」としての方針、即ち「もう一つの大阪」への構造的な経済・労働政策が求められている。それは、一つには大量生産・消費型の経済政策の対極にある農林業を含む「資源再生」であり、「資源自給」への努力である。また、一つにはグローバル資本の大量生産・大量消費、都市温暖化にともなう環境破壊から、環境を守り、環境を再生することである。そこに「公共事業」を生み出し、仕事をつくることである。

今日、付加価値至上主義に対して「労働の社会的価値」なる言葉が厚生労働省あたりで出始めているが、上記のような輸出競争とはまったく違う次元の仕事が「新たな公共事業」として求められているということと考える。

以下、我々の質問と要請に、特就登録労働者の誰もがよくわかる形で答えていただきたい。

1. (自立支援センター) 市は、2001年よりホームレス特措法に具現される「自立支援事業」の中軸たる自立支援センターを4年間で40億円をつぎ込み運営してきた。しかし、自立支援センターを

退所した労働者の多くが、再び路上へと追われている実態が明らかになりつつある。自立支援センターの「民間雇用」路線は明らかに失敗であり、公的就労保障重視へと再転換するべきだ。今度、市は国・府などと協力して「大阪ホームレス就業支援センター」なるものを開設すると言うが、その前に、まず、自立支援センターの総括と方針を明らかにし、この4年間の決算を出してもらいたい。

2. (シェルター政策) 市が「公園適正化=野宿者の一掃」の名の下に、シェルター政策を発表して5年を経た。この間、長居公園を皮切りに、西成公園、大阪城公園で同様の政策を打ち下ろしてきたわけだが、退所者や説得排除された者の多くは、公園よりも条件の悪い路上や夜間シェルターでその日をその日を過ごさざるを得なくなっているのが実態だ。シェルター政策は明らかに野宿者が自力で切り開いてきた生活と労働を奪うのみならず、生命をも危機に晒すものであった。予定なら今年12月閉所の大阪城公園シェルターに今年度5億1200万円の予算をつぎ込んでいる。この5年間のシェルター政策の総括と決算を明らかにしてもらいたい。

3. (緊急要保護業務センターと巡回相談事業) 市は昨年3月、市更相条例を改定して「緊急要保護業務センター」を設置し、行路病者の扱いを福祉事務所から分離した。また、「巡回相談事業」なるもので「巡回相談員」と称する生活保護施設連盟傘下の職員が公園や路上を徘徊し、野宿者を自己の息のかかった収容施設に狩り込んでいる。生活保護法との整合性から考えても極めて違法の疑いのある条例改定と事業であり、悪徳福祉ブローカーの跋扈の温床となっている。両事業の業務内容と予算、生活保護法との整合性を含めてその法的根拠を明らかにしてもらいたい。

4. (大阪ホームレス就業支援センター) 市は、国の事業委託の下、府、連合大阪、生活保護施設連盟傘下の3団体と共ともに「大阪ホームレス就業支援センター」なるものをこの8月に開設するとしている。しかし、民間雇用開発の掛け声だけで、なんら具体性がない。これをもって、特就縮小の根拠とすることは許されない。事業の対象者を「自立支援センターの入所者」「あいりん地域高齢日雇労働者」と限定しているが、その根拠は何か。事業の展望、日雇雇用保険をはじめとする社会保険の適用の有無、今後の予定とともに明らかにしてもらいたい。

5. (大阪府・市高齢者特別就労事業) 市は、今年度3億500万円を特就に充てているが、輪番就労は191名に縮小され、登録労働者はますます困窮を強いられている。自立支援センターなどの「民間雇用」ではもはや限界が見えただろう。労働センター求人のはほとんどは条件が50歳までである。自立支援センターを退所した55歳未満の労働者にとっても特就拡大への期待がたいへん高いのだ。今後は、日雇手帳(白手帳)のアブレ手当が得られる「月13日就労」や「年齢制限撤廃」にむけて、市は何が出来るか考えるべきである。即ち、自立支援センター(10億円)やシェルター政策(5億円)、巡回相談事業(2億5千万円)などに費やした年間予算を特就拡大のために振り向けることである。今後の特就事業の展望、拡大に向けた具体的な方針を明らかにしてもらいたい。

6. (資源と環境を基軸にした新たな公共事業) 市は、我々が前文で示したように、グローバル資本が生み出す大量生産・大量消費、都市温暖化、産業空洞化などに重大な責任ある大都市自治体として真摯に取り組み、「失対特区」の視点から「資源自給」に近づける「資源・環境の再生」を基本とする「新たな公共事業」へと今こそ踏み出すべきである。そこに、アルミ缶回収や特掃に特徴づけられる特就登録労働者を積極活用されたい。以上。

# 「一時金廃止」の動きを断じて許すな！「白手帳」を活かす共同論議を！

## 大阪市は返上した171億円を日雇・野宿労働者の失業対策に使え！

### オレたちの手で「要求書」を！本日8/3(水)懇談会で、府市要求準備を。

### なかまたち！

梅雨も明け、うだるような暑い夏が来た。このところ「熱中症」で倒れる仲間の話をよく聞く。特撮や車刈りもあまり無理せず、ゆつくり働こう。

今日は仲間たちに緊急にいくつか報告しなければならぬことがある。

「生存一時金」打ち切りを断じて許すな！

昨年の越冬期にも問題になり、仲間たちの激しい怒りで「モチ代・ソーマン代」廃止策断を打ち返した。しかし、ヤツら大阪府の役人ドモはまだあきらめていない。アフレ失業地獄の最中にあるオレたちにとつて、まったく不十分ながらも生きていくための生存一時金だ。断じて打ち切りを許してはならない！

ホームレス就労支援センター8月開設。なかみは？

大阪府・市、財界、連合大阪、社会福祉法人などの合作で「就労支援事業」が始まることは既に知っている仲間も多いと思う。しかし、どんな仕事かはほとんど決まっていらないらしい。そして、就労センターに登録できるのは、「自立支援センター」の入所者だけという。

自立支援センターを運営した仲間のほとんどが路上へ追

たわれていることは周知の事実だ。西成労働センターの飯場仕事や特撮の一部を「自立支援センター」へ回すだけではカッコが付かなくなってきたわけだ。既に「就労対策」として破綻している「自立支援センター」はテント・小屋の叩き出しの前提の収容先にしかなくなっていない。所長など幹部職員は平均100万円の高給取り。もう、いかげんやめてしまえ！

今度の「就労支援センター」が本場に仕事を仲間たちに出すものなら、自立支援センター入所者に限らず仕事したい野宿の仲間なら誰でも登録できるようにするべきだ。

### お5日懇談会ロジ

- ① 府市要求書作成
- ② 8月行動スケジュール
- ③ 各各公園報告
- ④ 夏祭り準備

**に込画会「黒い雨」**  
オキ方と原画...  
本主大位...  
キ...  
反...  
ら...  
ら...  
ら...  
ら...

**13. 14. 15**  
13. 14. 15  
13. 14. 15

西成市侯カン

# 「一時金廃止」の動きを断じて許すな！「白手帳」を活かす共同論議を！

## 排除收容の管理対策費(約10億・大阪城ホール5億・排除寄り込み巡回相談員2億)すべてを野宿・長期失業者の行事にまわせ！

### % 特就労(準)登録者懇談会、大阪市・大阪府に要望書提出！

### なかまたち！

「生存一時金」打ち切りを断じて許すな！

昨年の越冬期にも問題になり、仲間たちの激しい怒りで「モチ代・ソーマン代」廃止策断を打ち返した。しかし、ヤツら大阪府の役人ドモはまだあきらめていない。アフレ失業地獄の最中にあるオレたちにとつて、まったく不十分ながらも生きていくための生存一時金だ。断じて打ち切りを許してはならない！

ホームレス就労支援センター8月開設。なかみは？

大阪府・市、財界、連合大阪、社会福祉法人などの合作で「就労支援事業」が始まることは既に知っている仲間も多いと思う。しかし、どんな仕事かはほとんど決まっていらないらしい。そして、就労センターに登録できるのは、「自立支援センター」の入所者だけという。

自立支援センターを運営した仲間のほとんどが路上へ追

たわれていることは周知の事実だ。西成労働センターの飯場仕事や特撮の一部を「自立支援センター」へ回すだけではカッコが付かなくなってきたわけだ。既に「就労対策」として破綻している「自立支援センター」はテント・小屋の叩き出しの前提の収容先にしかなくなっていない。所長など幹部職員は平均100万円の高給取り。もう、いかげんやめてしまえ！

今度の「就労支援センター」が本場に仕事を仲間たちに出すものなら、自立支援センター入所者に限らず仕事したい野宿の仲間なら誰でも登録できるようにするべきだ。

### 夏祭り

市内の野宿・日雇労働者  
アメリカンで夏祭り

アメリカン | 1日 200カマ  
(200円分の祭り金券です)

アメリカン 2040才 チキソドリウカ  
(特就労参加者です)

2040才 14日 15日 140~80  
三島公園 南入り口

グローバル経済、軍事連出をすすめる政府打倒の祭り  
貧富差拡大、労働者切り捨て行政と半角失対の祭り

世界に広がるグローバリズム  
信略の嵐

日本と世界のすべての  
「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。

大阪府は「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。

未年度特就拡大を確保しよう！  
公園整備管理事業の登録  
者主体を確保しよう！

大阪府「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。

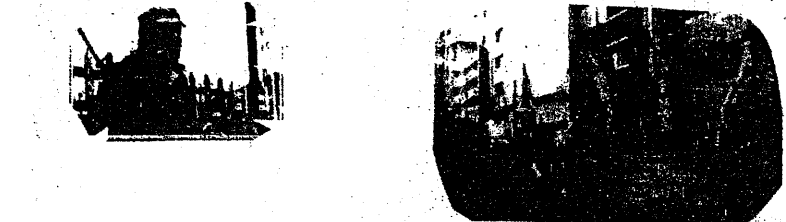
高年齢者特別就労組合(準) ニュース  
05年10月26日号 090-8233-3737

本日10%(休)の特就労懇談会

- ◎ 特就未年度のタテ
- ◎ 登録のながまわ多い西成公園・ウラボ公園への排除攻撃と市内のウゴキ学習会「1/6(日)「持たざる者」の関西連帯集会」に向けて  
- 増大する日本の持たざる者、世界の持たざる者に  
映画『どっかい生きてる』

大阪府「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。  
この「持たざる者」の連帯で反ゲキしよう。

もうひとつの世界を！ 社会排除に抗して、  
新自由主義グローバリゼーションと戦争に反対する！  
**11.6「持たざる者」**  
**関西連帯集会！**  
2005年11月6日(日)午後6時30分より  
エル大阪(府立労働センター)5階研修室2



11/6(日)に大阪城野外音楽堂  
「基礎いらい！戦争アかん！全関西の集い」  
特就労(準)有志参加者 11/6センター中央集合して  
「持たざる者」集会まで全日行動

11/5(土) 朝9時~9時30分 西成公園  
東京・名古屋・大阪 野宿者連帯  
ソフトボール大会・交流会

11.6 関西「持たざる者」の連帯集会(関西)「基調」(第三次案)  
(1)新自由主義的グローバリゼーションと反グローバル運動 (抜粋)  
(2)「持たざる者」とは？野宿、日雇労働者は折える！

①バブル経済崩壊から15年、基幹産業構造の空洞化にともない日本資本主義の構造的不況は長期化した。この構造的な不況は、失業者の職安離れを促し、「寄せ場」の解体状況の中で、困窮失業層を潜在化させた。政府発表は完全失業者約280万人と置かれる様に、完全失業率の「低下」を結果させているが、潜在者も含めて約500万人がいる。

②他方、日雇フリーターとして、あるいは臨時、派遣、有期、パートの非正規労働者として不安定な立場を強いられる労働者が、この間激増した。この傾向は、大企業のみならず、中小企業も含めて全産業におよんでいる。さらには、日本政府と資本の激しい監視の下に、海を渡って日本の下層労働現場で、3K労働に従事する「難民」、「外国人労働者」は、「不法滞在」や「強制送還」の脅しを喉下に日々突きつけられながら、懸命に生活と労働を闘っている。

③「勝ち組と負け組」の貧富の格差の拡大は留まるところを知らず、親の収入が子供の学力に直結する新たな階級社会が目の前に近づいている。年間3万人を超える自殺者の実態などはほとんど問題にされない。資本主義が、その帝国主義国家内外に不可避に生み出す、失業者、野宿者、フリーター等底辺労働者である「持たざる者」。この「持たざる者」にとって生きること、働くことは文字通り闘いそのものである。

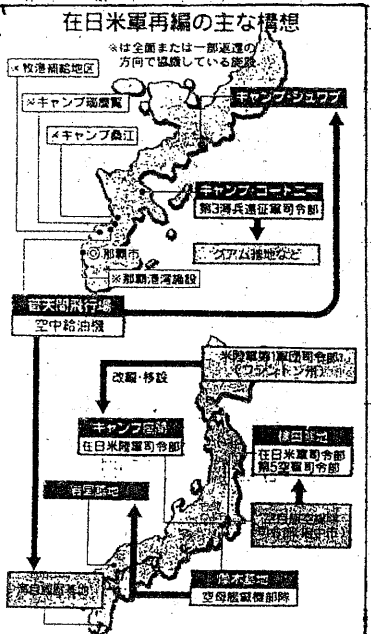
④この中で、5年間で公園テント・小屋を半減させる「成果」をあげるなど、野宿労働者を社会的に葬る、日本政府・行政の施策が打ち下ろされている。野宿労働者は、公園、路上を占拠し、協同生活と労働の再建を「テント・小屋」を拠点として闘いに立ち上がっている。他方、政府、行政へは公的就労を要求してきた。この闘いは、失業者500万人、さらには、ニート、フリーター、非正規労働者、外国人労働者へ拡大する「烽火」である。野宿、日雇労働者は、「持たざる者」の日本国家内外の戦線を創ることを、訴える。

(3)衆議院選挙・小泉自民党の圧勝と「持たざる者」  
①9-11 衆議院選挙は聞こえのいい「構造改革」「郵政民営化」を掲げた自民党の圧勝に終わった。小泉の吐く新自由主義路線を掲げる自民党や民主党などを支持する民衆は、その腕のかげりの中でより深い眠りに入ったのかも知れない。今後、自己負担を強いる「障害者自立支援法」、治安予防弾圧が目的の「共謀罪」、働く権利保障を葬る「職安民営化」、戦争国家化の総仕上げとしての「靖国法案」「憲法9条改悪」などが、次々と私たちに襲いかかって来るだろう。

本日も9じ〜17じ 全国野宿者ソフトボール大会・交流会 西成

高野会の西成会では、バブル崩壊のころから、釜の底までテントを叩き、野宿者たちから、アルミカンでアブレシノイできた。

APECで韓国ソウル釜山のホームレスはキビシイ越冬 (朝鮮日報 10.27-1外信員引用) ソウル地下鉄公社・鉄道公社は11.18からの釜山でのAPEC首脳会議を控えて25日から一月間、全線全駅のコンロッカを閉鎖。テロ防止を名目にしているが、実際は、毛布類をロッカーに入れて起るホームレスや日雇いの、この機会に排除するタメとも公言。韓国の冬は日本均寒いが冬におどめに泊れぬ人も多い。



アスに 北いらん！戦争アカン！関西のフとい (特就労(準)有志参加者は11.1センター中央集会) 「郵政民営化法案」反対票の方が多かったのに、コバミせ転左勝利。ガツクにも「日米安保再編切ギ中間報告」。日本「自以軍」と右日米軍の共同世界的差進体制！沖縄全県民の反対を覆ギナシに！岩国に原空母、横田厚木海間に西軍中樞司令部。一行ク共送長の既成事実化 ぞに 憲法改憲一 11.15.16 京都・ブッシュ・イズミ会談、粉砕ハ！ 11.18 釜山APEC 野宿者化者川違ハ！



10C 映画 73〜74 木4回越冬 10C30 全大阪越冬提起 連絡斗争提起 全港青西成分会 「福一」時金打ち切り闘い 釜崎地域合同市相 西成青、有徳の差別テ、上ヶ原在、予材在、上ヶ原、失業と野宿を考える実行委 強める福祉切り捨て差別 排除・収容」 排除攻撃とテント村をどう報告 西成公園・ハイシ攻防の現状 うげ公園・バラ会議工事のハシゴ 高野公園 キタの防犯監視とキタ越冬斗争 長考公園越冬と少年団事件 大阪城のつづきテント村 討議「特就労・全大阪越冬斗争要求書」 2C 映画 「釜釜斗の闘い」

最寒の冬！野宿者みんなにテントを！テント村をすべての野宿労働者の寄り場に！'05〜'06 全大阪越冬を闘い、生きぬこう！

釜市内のすべてをのちかまたちの。モ千代・ソノメン代回復の闘いも、まだ多くのなかまが闘っている。大阪府中は「千代がない」の一点張りだが、三セクなどへの巨額ボロテンを見ればウソである、とハッキリいえる。公営のカラ、残業やマシ返金、金切り出るからといって、なせ日曜日の福祉一、現金まで切取るのか？「かも」ネジクが日曜勤務者に取付た金までなせ活用するが！生活保護のモ千代は復活した。ワシらもアキラメス頑張りよう！ 特就現状維持」とは八月3日「コト」か。 一時金支給の撤上で、有市は、一度は現状維持(一九〇名)いすれ縮小して、有徳支援センターに重なるようつす」と言ったさうだ。 野宿者390人の「特就現状維持」最大要求に反対している。特就野宿者の最低限度は、10月年度の250人

12/28 全大阪えどう突入集会 (10C 扇町公園) 野宿センター出発 終結者 11/28 市庁デモ (11C 出発) 市役所前、特就労えどう統一要求 (12/27) 今年11月4日である。釜センター現金は上げようとい。アルミカンでもつけようとい。多くのなかまが公園をどうとてい。出され寒風スヤン道路で全線、テント止野宿を強いられている。50人以上入野宿拡大要求は絶対エスレを。 又、「高野会特就」は50人まで、排除・収容主義をやめよう。有市の「自立支援」と野宿生活にくまなく責任を放棄する。排除主義の本質は「下層階級をスルー」して上層階級である。下層階級含者の失業村造成の日本の現状ではそれは「自立」の道「自立」がタカニスル政策である。 この政策は釜が有徳福祉を力強いレイド向千代をつくり、救急行路者死(人)生活保護を奪い、有千代犠牲にしたのだ。

本日(21) 西成市民カン・全大阪えどう前段集会(10C 特就三中心会)



# 大阪市に物申す！ 12・27 全大阪越冬闘争突入集会へ！

本日、朝8時にセンター集合！大阪全土の仲間と共に市役所へ攻め上り、要求を叩きつけるぞ！

高齢者特別就労組合(準) ニュース

04年12月27日号 090-8233-3737

## なかまたち！

厳冬。もつとも過酷な季節が来た。特就労より越冬期の取り組みを特に2つ呼びかけたい。第一に、本日、27日(月)に扇町公園で行われる全大阪越冬闘争突入集会と市庁押しかけデモへの参加呼びかけだ。

大阪全土の仲間の団結で、「春」をつかみ取ろう！

多くの当事者の反対の声を踏みにじり、追い出し・狩り込みを強行した「長居公園特別対策」から4年。それをモデルに構想(妄想?)したホームレス特措法制定から2年。この法の意味が少しずつ明らかになってきている。

例えば、名古屋の白川公園では行政代執行(強制排除)の手続きを進めながら「シェルター」に入所するか自主退去するかを一方的に強要されている。大阪城公園では新規テナントを張ろうとした車イスの野宿の仲間を公園職員が取り囲んで「こじき」「死にぞこない」などと暴言を吐きまくって侮辱・挑発し、刃物を投げて抗議したこの仲間を

逮捕・起訴するなど許しがたい暴挙を行っている。

また、家電や銅線回収労働を「不法投棄」であるとして逮捕・起訴し、「アルミ缶持ち去り禁止条例」まで制定したりと野宿労働そのものを非合法化・禁止する動きが加速している。それらに抵抗する者に対する容赦ない治安弾圧。さらに追い討ちをかけるように緊急雇用交付金を廃止し、その下サクサに特就縮小II特措法一本化への策動を見せ始めた今年の役所の動きなど・・・オレたち特就登録労働者をはじめとする野宿・日雇の仲間を取り巻く状況はこれまでになく厳しい。

仕事を奪われ、住みかを奪われたオレたちにとって、唯一の希望は「団結」だ。生きて生き抜いて、俺たちに貧困と失業と死をどこまでも強いようとするクソどもに対して牙をむきつづけ、やり返していこう！

そしていつの日か「春」をつかみ取っていこう！

本日、全大阪越冬闘争突入集会・市庁押しかけデモに合流し、大阪全土の仲間と共に進撃しよう！

### 全大阪越冬予定

- キタ方面 扇町公園 12月28日 10時 突入集会
- 連合 12月28日 11時 市役所デモ (特就全大阪越冬統一要求)
- 1/4 キタ福祉行動
- 長居公園 12月28日 13時 モチツキ大会
- 1/4 まで 炊出し・少年シュゲキ防犯パトロール
- 西成公園 12月28日 10時 モチツキ大会
- 1 野宿者ネットワーク主催
- 1/2 ぜんざい・たいい合
- うつぼ公園 12月28日 11時 福祉事務所前 抗議行動
- 1/4 モチツキ打ち上げ
- 大阪城 12月28日 13時 越冬の日(正月)
- 東大阪 12月28日 14時 福祉事務所前 公園訪問予定

本日(12/28) 全大阪越冬突入集会 (100・扇町公園)

特就労(準)全大阪越冬統一要求 市役所デモ (11時出発) に集れ!

(朝センター出発7時15分)(登録者は輪番とりから9時30分・P階・労福センター前出発)

モチ代・ソメ代・ソメ代をだせ。

ゼネコンの出たあたり、600万円は直博・所得労働者にわたせ。

この冬の寒さはキツイ・アルミカンも夏より5分の1しかとれない。仕事もふえない。生活保護の人らのモチ代は復活した。死線上的ギリギリの生活モシイられるリミラの福祉一か金ウチ切りはゼンタイゆるませない。

モチ代・ソメ代・ソメ代をだせ。

高齢者特就・最低限250名 (月4日) を守れ!

特就拡大(月13日) 3級アプル(賃)で、タンとメシが食え、住めるようにしよう。

好次部門の正規労働者だけの春闘で財界と申し合せの賃上げをするというが、ワシラは下層の高齢者、若くは、若くは、若くは、高年齢層のスクラップ(抹消)が、政策放棄の本音のようだ。ワシラは特就堅持。

これ以上のハイジュー・テートつぶしはゼンタイせない。

市内・市下に4000人以上あったテナント・仮小屋の半数以上がつぶされた。多くの仲間が公園などを追い出され、道路に露宿させられている。幾千人のなかまが、自立できず、たぐ「死線」をさまよった。ワシラは、行政に、国際人権規約「E9」を押しつけ、ごんごん、テナント、仮小屋を建て、生きかこう!

自立という名の福祉切りを許すな。

各区福祉事務所は、生活保護法の通りに、野宿者を居色保ごころ。通院医療券を出せ。救急入院から保ご居転(を)を継続せよ。

高齢者特別就労組合(準) ニュース

05年12月28日号 090-8233-3737

越冬および通年の要求(案)

事実を風化させないために我々は何度でも同じ言葉を吐く。多くの当事者の反対の声を踏みにじり大阪市が強行した「長居公園特別対策」(2000年)をモデルに、排除と収容のためのホームレス特措法制定(2002年)から3年を経た。下層労働力として使える者と使えない者とに分類する「自立支援事業」や「公園適正化」の名の下に全国各地で吹き荒れる野宿者排除・流動化政策とは、釜ヶ崎形成より100年、大阪府・市・警察と自衛隊が繰り返してきた「棄民化政策」の焼き直しであり、その全国化に他ならない。

大阪市長・関淳一は、失業と貧困を拡大する市場原理主義に基づく「小泉構造改革路線」を大阪市でやりたいようだが、糞の類に等しい愚行であり、ただちに止めるべきである。この新自由主義的諸政策を国や大阪市が改めない限り、生活困窮者は今後ますます増えていく。国からの圧力で生活保護の運用の見直しを始めているようだが、保護を必要とするところに必要な金を出すのは当然の法的責務であって、通院医療扶助費の抑制などは論外である。毎年、200人以上の野宿者が市内で路上死を強いられている。大阪市はこの現実をさらに悪化させようと言うのか。退所者の多くが入所以前よりもますます困窮した状態で野宿を強いられるシェルターなどは、高給取りの市出向職員の雇用対策にこそなれ、野宿者の未来を切り開くものではなかった。自立支援センターの破産は言うまでもない。その破産を覆い隠すように、「行き先の決まらない入所者のため」として大阪城公園シェルターを期間延長したり、「社会生活復帰訓練」などと称する自立支援センターの一部出所者専用の小規模施設を12月より開所したが、失業問題や貧困問題の解決という問題の本質からはほど遠いものであり、ゴマカシに過ぎない。むしろ、関経連など大企業の利潤追求の道具と化している市政を排し、癒着出入り業者との不透明な「随意契約」や赤字3セクへの税金投入を廃止するべきである。市職員への異常なまでの手厚い待遇等への見直しは言うまでもない。その見直しで浮いた数百億円を生活に困窮する人々のために大阪市は投入する名誉を得るチャンスがある。

にもかかわらず大阪市は、今年4月、「大阪府・市高齢者特別就労事業」の輪番就労250人枠を192人へと縮小し、特就登録者2890人のうち4分の1が取得している白手帳の一時金(モチ代・ソーメン代)を府・市は今年8月と12月に出さず、廃止を宣言して恥じない。アブレや追い出しなど野宿生活の困窮につけ込んで声をかけ、賃金不払いを稼業とする殺人飯場=朝日建設グループに象徴されるケタオチ暴力飯場が釜ヶ崎の周辺や駅・公園に拡がり跋扈している。また、生活保護でアパートに入居させてやるからと駅・公園の高齢野宿者に声をかけ、生活保護費の9割をむしり取る悪質福祉ブローカーが各地を徘徊し、府下で数千人規模の狩り込みが行われている。リサイクル法施行を機に従来よりアルミ缶・家電・銅線回収労働で生計を立ててきた野宿労働者を地域自治会や清掃業者などが排除していることが各地で報告されている。仕事を奪われ、住処を奪われた野宿者を取り巻く生活環境は貧困を極めている。以下、大阪市に要求する。

1. 仕事をよこせ。

①特就を250人枠に回復せよ。

大阪市は少なくとも万博以来の関西インフラ整備事業への日雇求<sup>あそ</sup>入、釜ヶ崎形成とその後の日雇労働者の高齢化やアブレ失業に責任がある。官の責任をあいまいにする民間マル投げの「ホームレス就業支援センター」などでは野宿・日雇の層的な解決を求められない。登録労働者2890名と40~50代の野宿・日雇労働者の共通の願いは、何よりも特就の拡大である。社会的責務として、従来どおり大阪府との共同責任の下、「大阪府・市高齢者特別就労事業」の250人枠をまず回復せよ。

②特就拡大へのプランを示せ。

特就が果たしてきた環境保全への貢献度を評価し、河川・森林整備、道路清掃等の失業対策としての公共事業拡大のプランを示せ。

③アルミ缶など資源回収労働への助成を行なえ。

アルミ缶、銅線回収など環境・資源リサイクルに果たしてきた野宿者の仕事の意義を極めて大きい。しかしながら、現在、アルミ回収の平均日収は500円前後であり、飢餓線にある。「資源リサイクル労働者手帳」を発行し、相場100円のアルミ1kgについてさらに100円の助成券を発行する」というような、大阪市として野宿者の環境・資源リサイクル労働への助成を行え。

④すべての「持たざる者」の失業対策・社会保障のプランを示せ。

国の政策は失業と貧困を拡大する一方である。行政の無策の中で、「野宿予備軍」と言える社会の底辺下層はますます広く深くなっている。若年、女性、障害者をはじめとするすべての野宿層・失業層・不安定就労層への公的就労対策・社会保障のプランを示せ。

2. 差別行政を是正し、生活保護法に基づいた福祉行政を行なえ。

①悪質福祉ブローカーの実態調査と対策を急げ。

不動産会社や飯場経営者と結託した悪質福祉ブローカーらが「アパートに入れてやる」と言葉巧みに野宿者を勧誘して数人の大部屋やボロアパートで生活保護をかけ、「食費・経費・会費」と称して10万円前後を搾取し、1~3万円を「小遣い」として本人に手渡すというシステムがまかり通り、恐らく府下で5000名近い野宿者が被害を受けているようだが、実態を把握しているのか。搾取されて生活できずに野宿に戻った者はブローカーからの報復を恐れて声を上げられない。見つかってしまい連れ戻されたという酷い例も聞き及んでいる。ただちに実態調査を行ない、対策を急げ。

②現在地保護の原則を厳守し、必要な保護を発生地事務所で行なえ。

各区福祉事務所は保護を求めた野宿者に対して、いまだに通院医療扶助や居宅保護を受け付けず、法的根拠のない巡回相談や日雇差別条例に基づく市更相等へたらい回しにするなど北区を除き生活保護法の違法運用を行なっている区が多い。生活保護法に基づく現在地保護の原則を厳守し、居宅・入院、通院など必要な保護を発生地福祉事務所で行え。

③緊急入院要保護業務センターを廃止し、ケースワーカーを増員せよ。

ホームレス特措法にあわせて昨年4月に市更相条例を改訂し、設置した「緊急入院要保護業務センター」は無差別平等を踏みにじる生活保護法違反であり、憲法違反である。ただちに市更相条例の改悪を撤回し、行路業務等を発生地福祉事務所へ戻してケースワーカーを増員せよ。

3. 野宿者の居住権(生存権)を守れ。

①追い出しをやめろ。

たかが「世界パラ会議」如きで人間の尊厳が踏みにじられていいわけがない。観光やスポーツと比べて生存権が軽くあしらわれて何が「人権都市宣言」か。公園はお金持ちの市民のための「ゆとりとみどり」か。寄る辺なき人々にとって路上や公園は、人として生きていける最後の場である。路上・公園からの追い出しをただちにやめろ。

②巡回相談を中止し、話し合いのテーブルにつけ。

追い出しとセットにした巡回相談や「自立支援事業」は、野宿者の困窮につけ込むケタオチ手配師や悪質福祉ブローカー並みの愚行であり、問題を混迷させるばかりである。まず、すべての追い出しを中止し、各公園自治会、当事者団体、支援団体の声を聞き、話し合いのテーブルにつけ。

4. 越冬期について (一時金回復)

①特就登録労働者2890名の4分の1は白手帳を保持している。月3回の輪番就労(月収15000円)という現実の中で、一時金(モチ代・ソーメン代)は2ヶ月分の月収に当り、生存一時金である。一時金を得るために特就に登録してから白手帳を取得した労働者も多い。廃止など論外である。大阪建設業協会が一次金用に出資した1800万円分を先行的に出せ。

②冬休みを前に、各公園では青少年やサラリーマンなどによる野宿者襲撃が続発している。教育委員会や市民局人権室として為すべき事がある。実態調査を行ない、対策を示せ。

③南港臨泊等の越冬対策についての情報提示が例年遅い。もっと早く提示せよ。以上。  
(各26424) 2005年12月28日





新年度登録始まる！55歳以上の日雇・野宿の仲間は特掃に登録しよう！  
 特就登録労働者は団結して、特就拡大を求め署名活動をひろげよう！  
 映画『ノガダ／土方』を観よう！3.24 三角公園／3.29 市民館で上映！！

# 高齢者特別就労組合(準)ニュース

06年3月23日号 090-8233-3737

## ながまたち！

特就新規登録受付が、3月24日(金)と27日(月)、4月の毎週木曜日に西成労働福祉センターで行われる(午後1時～4時)。

55歳以上の日雇・野宿の仲間はまだ登録を済ませていない仲間はできるだけ早く新規登録・登録更新を済ませよう！  
**特掃は仲間たちの仕事！**  
**誇りをもって働こう！**

92年7月、林建設の顔付け・暴力手配に抗議した故・和田さん(04年8月死去)が林建設車両焼き討ち決起。その決起を号砲に市内5000軒のテント・小屋を背景とした日雇・野宿の仲間の実力闘争によって、94年11月に55歳以上の日雇・野宿の仲間、障害者の仲間なら誰でも清掃や草刈などで働ける「大阪府・市高齢者特別就労事業」が勝ち取られ、10年を経た。

**登録することが特就の仕事拡大の闘いの第一歩！**

昨年度は2890名の仲間が特就に登録した。国の「緊急雇用交付金」の廃止のアオリで、輪番就労が200名前後に削減された。今年も同じぐらいの仕事が見込まれるが拡大への道は険しい。日当5700円。月々3回まわって来る。これだ

けで食っていくにはしんどい。それでも、ひとりでも多くの仲間が登録することで、特就を拡大させる大きな根拠になる。登録することが闘いの第一歩だ！

**年齢証明など登録手続きの相談は特就労まで！**

年齢を証明するもの(日雇手帳、以前の特掃カード、運転免許証、公的資格証、住民票、労働センター・医療センター・市更相などの相談記録、公的病院診察券など)が一つでもあれば登録できる。

登録受付日には特就登録労働者組合結成を準備する特就労が机だし登録相談を労働センター3階でやっているのだから年齢証明等あらかじめなんでも相談してほしい。

日韓の日雇労働者の連帯を！  
 キム・ミレ監督来日記念！  
 韓国ドキュメンタリー映画

『ノガダ／土方』  
 釜ヶ崎連続上映会

3月24日(金) 18時  
 三角公園 ※雨天は市民館  
 3月29日(水) 14時  
 西成市民館大集会室



NOVOX

# 土方

韓国ドキュメンタリー映画

NoGaDa

NoGaDaは日本語で土方だ。

日本の植民地支配を受けた時から  
 今も工事現場で肉体労働する人を指す言葉だ。

私の父は建築現場で働く超特大工だが、  
 現場では土方と呼ばれる。

外資危機が始まった1997年冬、  
 私の父は、すぐ生活危機に直面した。

父は、家を出て野宿者になると言い出した。

私はショックを受け、

このドキュメンタリーを撮り始めた。

●監督:金 英徳(キム・ミレ) ●2005年製作/89min

●釜山国際映画祭/ソウル国際労働映画祭出品作品

■主催:日雇全協/グローバルセッションを考案する日雇・野宿者運動準備会

東京 3/25 [土] 6:00pm開場 / 6:20pm上映開始  
 文京シビックセンター4F シルバーホール

名古屋 3/28 [火] 6:00pm開場 / 6:30pm上映開始  
 愛知県中小企業センターB1F

大阪 4/1 [土] 1:00pm開場 / 1:30pm上映開始  
 エルおおさか7F 9号室

【プログラム】  
 映画上映(1時間29分)  
 +  
 キム・ミレ監督を招いての  
 トークショー  
 資料代 ¥1,200  
 (各会場共通)





# すべての底辺下層の労働者団結せよ！

- ★1・30行政代執行弾劾！ 野宿者の強制排除を許さんぞ！
- ★排除-収容とケタオチ就労のためのホームレス特措法体制解体！
- ★「2ヶ月26日以下」でも日割り計算してアプレ手当をよこせ！
- ★一時金プール資金横流しを許さず、ゼネコン・大建協を追及するぞ！
- ★殺人飯場=朝日建設グループを許さんぞ！ ケタオチ暴力飯場解体！
- ★派遣フリーター、未登録人夫出し飯場の労働者に白手帳制度を適用しろ！
- ★高齢日雇労働者失業対策=特別就労事業を拡大しろ！
- ★あいりん職安は仕事を出せ！ 全自由労働者に失対事業を行なえ！

## 日雇・野宿労働者メーデーに結集せよ！

5月1日(月)

- 朝5時半～ 労働センター情宣行動(その後、中ノ島へ移動し、朝メシを食べ集会準備)
- 朝8時半～ 日雇・野宿労働者メーデー集会(中ノ島・剣先公園)
- 朝9時半～ 一時金をよこせ！大建協押しかけ行動(北浜・大林組大阪本社前)
- 朝10時～ 中ノ島メーデー(主催：全労協/剣先公園)集会後、梅田へデモ。

### 高齢者特別就労組合準備会/釜ヶ崎パトロールの会/長居公園仲間会

#### すべての自由労働者/持たざる者たち、そしてまだ見ぬ仲間たちへ

高齢者特別就労組合準備会/釜ヶ崎パトロールの会/長居公園仲間会よりメーデーに結集された仲間たち、あるいはメーデーの日に働かざるをえないすべての仲間たちに、連帯の挨拶を送ります。まずはじめに、1月30日、大阪市による朝公園・大阪城公園の野宿者27名に対する強制排除に抗議し、全労協や関西生コン、ゼネラルユニオン、日雇全協をはじめとする多くの激励や応援に感謝します。関西の多くの労働組合や全国の仲間たちに支えられて糧一杯闘ったことを誇りに思います。朝公園や大阪城公園から寒空の下に追われた仲間たちは、他のテント村に移り住んだり生活保護申請を回ったりとそれぞれ生活再建の途上だが、まわりの仲間たちに支えられながら頑張っています。これからもご支援・ご協力をよろしく願いたい。

日本政府や資本はコイズミ新自由主義構造改革の下で景気が回復したというが俺たち日雇い・野宿の労働者にその実感はまったくない。それどころか、フリーターや登録派遣など非正規の不安定労働者が激増し、「失業予備軍」「野宿予備軍」として生活苦の悲鳴が日本列島全体を覆っている。景気回復の恩恵にあずかる者は、資本家とそれに結びつく政治家、官僚、大企業の幹部社員ばかりだ。

年度末まで微増していた釜ヶ崎の現金仕事も4月に入って激減し、炊き出しや福祉相談に駆けつける労働者が激増している。日雇雇用保険(白手帳)を持つ日雇労働者に支給されてきた「モチ代・ソーマン代」と呼ばれる一時金(夏冬で約35000円。平均月収が3万円前後の野宿労働者にとって大きな収入だ)が、激しい抗議の声にも関わらず昨夏より支給されていない。アプレ手当(2ヶ月26日以上就労が条件)がもらえるほど仕事がない状況のなかで、一時金が命綱の役割を果たしていた労働者も多かった。「一時金廃止」攻撃のなかで、白手帳を維持できず手放す労働者が増え、白手帳所持者は5000名を切った。もはや日雇雇用保険(白手帳)制度そのものの廃止(制度的日雇労働者の無権利化と釜ヶ崎の墓場化)と改正労働者派遣法の弾力運用によるフリーター労働力の導入(すでに潜在的に急速に拡大している)を念頭にいった建労法体制の再編が大手ゼネコン資本の手によりはじまっている。

政府・資本・行政は「自立支援」の名の下で、野宿者だけではなく、生活保護受給者や障害者をも「自助努力」「自己責任」を押し付け、更なる生活苦へと押しやっている。高齢日雇労働者の失業対策事業である「大阪府・市高齢者特別就労事業」に今年度登録した仲間も例年以上の執拗な登録妨害を跳ね除け2530名が登録カードを勝ち取り、月3~4回の仕事に就いている。しかし、ホームレス特措法の下で、「就労自立」の名の下にケタオチの「自立支援事業」一本化(=特措廃止)の策動が蠢いている。アルミ缶の単価は1キロ=150円前後に跳ね上がっているが、自治体による分別回収が進んだため野宿労働者など零細な自主回収業にまわるアルミの総量が減ってきたためと見るべきだろう。一部地域の自治会や清掃業者らが野宿労働者のアルミ缶回収を監視・排除するようなことも起きている。

また先週、天王寺公園周辺のテント村に対して「朝公園のようになりたくなかったら収容に応じることを行け」と大阪市ゆとりとみどり振興局と公園事務所の職員らがテント・小屋掛けで生活する野宿労働者を恫喝し、行政代執行の手続きすら取らずに強制排除している。労働者が労働者の生活を奪う暴挙。それを産して黙認するどころか先の1・30代執行では市の方針に協調した大

阪市職労・市従組合。オノレの首を守るために野宿労働者を野垂れ死にへと追い込むこの行為が、いずれオノレの身にも降りかかることを知らなければならない。大阪市長・関はコイズミ新自由主義構造改革をマネて、「公営民営化」や「職員を2分の1に削減する」と公言しているのだから。自治体労働者は野宿労働者と団結しなければならない。市職労・市従は誰と連帯しなければならないのかを真摯に考え実行しなければならない。このように寄せ場や野宿現場をめぐる状況は、あらゆる階層の動向と密接に関係しており、一部分だけを取上げてはもはや前進しないところまできている。

今、「格差社会」「下流社会」という言葉が巷に流行っている。親の財力が子どもの学力に直結する。それは労働者の子どもの成人してもやはり労働者であり、出自出身がその人間の一生を規定することを意味する。これまで「国民総中流」などという幻想の下に、我々底辺下層の日雇い・野宿労働者を踏み台にすることで成り立っていた「市民社会」が骨をうって崩壊しつつある。資本=持つ者と無産者=持たざる者という厳然たる階級社会の到来である。この広範な持たざる者の一翼である日雇・野宿労働者は歴史的・構造的に最底辺階層に位置づけられてきた。不安定、使い捨て、アプレ失業、貧困の苦しみも最も体にも染みこんだ階層である。その心慮からの怒りをもつ底辺から、その他の多様な持たざる階層の仲間へ呼びかけ、行動実践を通じた団結をつくり、共同闘争の陣形を築いていくことこそが、これからの社会を根底から変えていく鍵となるだろう。

我々は、①高齢日雇労働者の失業対策事業=特別就労の拡大闘争を通して全自由労働者を対象とした失業対策事業、②白手帳制度のなし崩し的解体を阻止し、「2ヶ月26日以下」でも日割り計算でアプレ手当を出すような白手帳の弾力運用、③建設現場に派遣される登録フリーターやセンター登録していない人夫出し飯場の労働者が白手帳制度の権利を行使できるような運用、登録義務化などの具体的な政策要求を掲げながら、寄せ場・野宿現場を基点として、飯場労働者、失業者、フリーター、登録派遣の下層労働者、臨時・期間労働者、不安定な移住労働者など、あらゆる底辺下層の自由労働者の生活と労働に依拠し、戦略戦術、政策要求を点検しながら現場に根ざした取り組みを今後数年かけて構築していきたい。

ともに勝利を。ともに未来を。

2006年5月1日  
高齢者特別就労組合準備会  
釜ヶ崎パトロールの会  
長居公園仲間会



# 高専者特別就職組合(準)ニュース

06年6月21日 060-82266-6127

## 本日10時臨時学習会

(同時会場・全港湾西成分会等)

### 課題

- ① 特就労者名提出行動報告
- ② 西成分会市申入れ報告
- ③ 沖津次々田(多岐)提起
- ④ 本23回全日地域・専修会代表会  
(多岐 神奈川県三浦市)  
有志派遣方針

いってない。」「国、地方自治体の責任で、特就労者の生活の保障を制度的に確立させよ」ということである。

差別が横行している。」「排除と半強制的、それしかなく進んでいる。」「夜間エレベーターへの依存」と言っている。」「登録者が、特就に依存している。」「野宿者が失業率に正比例して増えた。」「特就は野宿を助長するから早く打ち切った方がよい。」「野宿労働者への偏見」と敵視を煽る「タメニスル」デモが、市内外に流れている。

近畿マンション 供給前年割れ 5月、契約率も下降 不動産経済研究所大阪 事務所が14日発表した近 畿圏(大阪、兵庫、京 都、奈良、和歌山) の7府4県の5月のマ ンション市場動向によ る。販売戸数は前年同 月比10.3%減の2000 戸に落ち、発売戸数 に対する契約率は78.7 %同月の9.4%落ちた	だ。販売戸数は3888 戸と横ばいだった。 地域別の発売戸数は、 大阪市が774戸と全 体の32.3%を占め、同 市を除く大阪府下の約1 ・6倍、神戸市の3倍 だった。同研究所は「大 阪都市心の一極集中がマ ンション市場動向による 」。首都圏契約率 80%割り込む 不動産経済研究所が	14日発表した5月の首都 圏(東京、神奈川、埼 玉、千葉4都県)のマ ンション市場動向によ る。発売戸数に対する契 約率は前年同月比6.9% の76.3%だった。年間 3万戸規模の大規模供給は 続いているが、郊外のマ ンションが敬遠される傾 向が強まり、1カ月分の に80%を割り込んだ。販 売戸数は前月比5.6% 戸増の6026戸に落ち た。
--	--	--

## 本23回全日地域・専修会代表会

「日本とマンレス」の抵抗

東面大港集会所 6:30 大港

## 告 告 告 告 告

5/6 大阪府・市へ  
要望署名提出。

一昨大阪府に(署名5998名)3時・大阪府に  
(署名612名)登録のなま30人提出行動  
各府各々の代表層が行動しました。  
この段階では、府・市共の「特就」について  
現状維持が最大限努力だった。今後、ホーム  
レス就労支援センターなどを通じて民間雇用とは  
かかっていきなさい、という去年夏と全く同一一般  
説明がなされた。要望を実行させるため  
更に署名交差行動を行おう。

## 要望署名と賃金の問題点

「特就」の現場に直接働き 市建設局  
自身が特就維持拡大の努  
めをしよう。交渉に出るまい。

現在の特就現場は、大学や病院、保育所の他は  
すべて、府建設土木・市建設局の管理する「コ  
ロ」であり、「特就」の仕事はその維持管理(公衆  
事業の一部を下付)・稼働させるカタチにな  
っています。「特就」として「特別賃金」を  
ても当局が積極的に仕事を「引き受け」られ  
ば特就は拡大しません。そのためには「特就  
マンレス」の拡大ばかりでなく、直接特就  
雇用・センター雇用も必要なのです。

「排除のタメの工事や事業」もマンレスに  
のぞき、美合業者や随時契約業者を  
するばかりが仕事でなく、マンレスは失業対策  
責任の範囲であつたのです。  
今後、直接、建設局交渉におかおう。

② 専修と市内野宿者の生活保  
険をどうにかして、生活費給登録者  
の方向をどうにか。

近年、大阪市の生活保が全国でも突出  
している。国会でも問題にされ、市内福  
社のシメ出、又市以下にシメ出は強ま  
っている。又政府は措置に削減を画策して  
いる。生活保を自主支援、いいがえの  
て早く生活保を返上しよう。ツツタキが教  
い。「一方、野宿者保がローカリーにお  
い。野宿者においこまれている。本人やケ  
ワーカーが事情をどうにか願う。

③ 登録申込み資格に、センターを常時  
利用する日雇労働者、限定は無効の。

近年、登録拡大を「オサエタイ」野宿者の登  
録進め込みを「ハカリタイ」という目的か  
ら、登録日雇のせまい規定を「下り  
アルキ」させて登録拡大の動きが強まった。  
これについては、  
「金ヶ崎高令化と市内拡散」ダブルルカイ  
以降の野宿者「多業種業者」の野宿  
者入、又「特就」から「日雇」の登録を再  
認。市市申入れを「再認」しよう。

④ 九年後から10年からの「特就」

特就として、拡大がなければ「再登録  
者」は「再登録」の課題であるが、  
国会で何回も議論のあった「再登録」  
次年度は「再登録」は「再登録」の課題  
「再登録」の課題である。

大阪府・大阪市は特就労(準)要望署名に応えろ。  
 来年度、特就拡大と年令(50才から)拡大への方針具体化を急げ。  
 「ホームレス」でなく、すべての「失業者就労支援センター」に！登録は特就カードの延長に！

●現在「ホームレス」就労支援センター登録者は60人ぐらになつてゐる。ところが、ほとんどが、特就登録者であらう。  
 ●なせセンターで本人紹介をせぬのか、「別のカードをつくらせよう」といふなどの声があつてゐる。  
 ●一部労働者支援センターの労働者きり捨ての差別・選別への危険がある。

●府市の政策方針にかかりすぎ、セネコンの5,600万円は、民間労働者のカネトツタ福祉一助金であるから、府・市は補正予算でタテカエルべきだ。一助金は、就労支援センターにない。  
 ●市議員の返還金の30億円の一部を特就二年分にも、そんな低額運用が、スベテ手は税金に充てられるのか、行方は、自治体労働者の権利侵害を、しなすべく、われわれ失業者対策も差別なく、いかにせよ。  
 ●すべて、賃金、権利、責任、代行支援との交渉を行う政が、つくり出す混乱である。

釜ヶ崎夏祭り 7/2・13・19・15 七夕夏祭り 7/28  
 長居大輪祭り 7/9・8にアピカンで参加を。  
 (1kg250カマ予定) 特就労サービス券準備

7/26(木) 第4回特就労こんだん会 市民センター3F

《くたばてたまるか。いっしょに生きぬう。》 暑中映画会

0:30 開場

1:00 『バリア超特急』 9年制作・かしく水野晴郎  
 陸軍大将山下奉文のモスク・ヨロズ 主役・かたせねか 菊池 孝典・カンパニール・アサヒシロシロ...

2:30 こんだん会

3:30 『血と骨』 かしく、菅洋一 主役・ビートたけし 鈴木京香...

6:00 こんだん会

6:20 『夜を賭けて』 原・梁る日 かしく、金守珍 主役・山本太郎 ユー・ゲンギョ...

1978年、パンクのあった東橋・東成のアパッチ部落、大阪城東の真番工場跡の鉄拳取を！ 廃品回収・アコ・雑業と民族 いりまじり 生活群像

平成18年7月16日 日曜日

働く人増えても総労働時間減

近畿 短時間勤務の増加

近畿の就業者数増加率と総労働時間の推移 (右目盛り)

2004年 2005年 2006年

就業者数増加率 (右目盛り)

総労働時間 (右目盛り)

2004年 2005年 2006年

懇談会有志アピール案 (一書P)

なきました！  
 我々失業・野宿・日雇労働者の 闘つ「労働組合」を創ろう！

★全大阪高年齢者特別就労組合を結成しよう！

大阪府下の公園、路上の仲間たちは、今苦しんでいる。大阪市の強制撤去の動きは、1月30日朝大阪城公園のテント・小屋の強制撤去以降、小公園路上に拡大してきた野宿者の数も増えている。大阪府下の野宿者の釜ヶ崎への流入と府下各市への拡散が起つている。

府下の仲間として、「高年齢者特別就労事業」は最後の「盾」を握っている。あるところから、大阪府は、08年の打ち切りと、「支援センター」への移行を表明している。民間雇用・自助努力を運ぶ新自由主義政策そのものである。「脱落する者は」市民に任せよう。

反失業闘争で勝ち取られた失業対策事業「高年齢者特別就労事業」の防衛拡大こそが、失業・野宿・日雇労働者の今必要戦略的反抗の闘いである。我々は、このために闘う「労働組合」を結成する。自民党政府、大阪府・市の新自由主義政策と対決し、全世界の「持ちこたえざる」連帯して、闘おう！

「高年齢者特別就労事業」の仲間たち！全大阪高年齢者特別就労組合に結成しよう！

06年7月26日

資料

# 野宿労働者のいのちとくらしを奪う強制排除絶対反対!

## 緊急事態! 1・27反排除集会-1・30大阪城・うつぼ公園現地闘争へ総決起せよ!

### 失業と野宿を考える実行委「ユース」06年1月25日号

06-16647-18278 (医務連) 090-19700-0296 / 090-8233-3737

なにかまたち! 野宿(約5軒)で野宿の仲間(約20軒)と大阪城公園(うつぼ公園)の仲間(約20軒)と大阪城公園を強制排除するために、1月24日(月)に大阪府は行政代執行命令書を配布した。ヤツら大阪府は30日(月)に強制排除すると宣言している。大阪府は(家)であるテント、小屋を「工作物」と呼んで強制排除しようとしているが、まったく不当だ。そもそも、国と大阪府・府にアテ(失業)・アオカン(露宿)の責任がある。仲間たちは自殺も野たれ死ぬとも拒否し、公園にテント、小屋を建て、アルミ缶やタンポール、雑誌を積み、ずかばかりの日雇仕事で日給を稼ぎ、まわりの仲間と支えあひながら懸命に生きてきた。その仲間たちから、テント、小屋を強制排除せよというところ、大阪府はより泥沼に足を踏み入れることになるだろう。

### なにかまたち!

うつぼ現地野宿闘争へ総決起し、大阪城・うつぼ公園の仲間(いのちとくらし)を守り抜こう! 固執して、大阪城・うつぼ公園の仲間と共同闘おう!

### 1月25日(水) 朝10時より

特就労懇談会 (西成市民館)

※懇談会の後、大阪城へ移動。昼1時、大阪城公園炊き出し集会。夕方5時、市役所前抗議行動。

### 1月27日(金) 朝10時より

反排除総決起集会 (朝公園)

そののち、市役所へ2次署名活動。山内さん住民訴訟判決傍聴。反排除裁判報告集会(元大阪)。

### 1月30日(月) 前夜・早朝に

強制排除反対! 現地闘争

うつぼ・大阪城に総決起せよ!

大いいた流れのなかで、仕事を失い野宿にまで追いやられる人びとは今後も増えつつある。失業や不安定雇用化と「自己責任論」は、労働者の権利や力量を切り縮めて資本家、大企業をより儲けさせるためにつくりだされた意図的な政策だ。「自立支援」と称して個々の「自己責任」に転嫁して問題を隠蔽する今の「ホームレス特措法」を廃止し、政府が責任をとり、特別就労事業の拡大をはじめとする抜本的な失業対策事業をきっちり行え!

ある。仲間たちは自殺も野たれ死ぬとも拒否し、公園にテント、小屋を建て、アルミ缶やタンポール、雑誌を積み、ずかばかりの日雇仕事で日給を稼ぎ、まわりの仲間と支えあひながら懸命に生きてきた。その仲間たちから、テント、小屋を強制排除せよというところ、大阪府はより泥沼に足を踏み入れることになるだろう。

### なにかまたち!

うつぼ現地野宿闘争へ総決起し、大阪城・うつぼ公園の仲間(いのちとくらし)を守り抜こう! 固執して、大阪城・うつぼ公園の仲間と共同闘おう!

### 1月25日(水) 朝10時より

特就労懇談会 (西成市民館)

※懇談会の後、大阪城へ移動。昼1時、大阪城公園炊き出し集会。夕方5時、市役所前抗議行動。

### 1月27日(金) 朝10時より

反排除総決起集会 (朝公園)

そののち、市役所へ2次署名活動。山内さん住民訴訟判決傍聴。反排除裁判報告集会(元大阪)。

### 1月30日(月) 前夜・早朝に

強制排除反対! 現地闘争

うつぼ・大阪城に総決起せよ!

# 大阪市、テント強制撤去

## ホームレスら激しく抵抗

### 市内2公園

大阪市は25日朝、公園再整備を妨げているとして、行政代執行法に基づき、朝公園(西区)と大阪城公園(中央区)で暮らしているホームレス22人と、支援者を含めた計21人のテントの強制撤去を始めた。ホームレスや支援者数は激しく抵抗、怒号が飛び交った。同日午後、朝公園に残った最後のテントの撤去にも着手した。

朝公園でもお台所の入り口を閉鎖しようとしていたホームレス側の一人、市職員が何者かにテントを壊された。市は五日に開催予定の「世界パラス会議」に向け、同日午後八時に作業が開始された朝公園では、ホームレスらから激しく抵抗があった。午後十時から、朝公園で市職員や警備員の計四百四十人、大阪城公園で計二百五十人を動員した。

市側は、朝公園で市職員や警備員の計四百四十人、大阪城公園で計二百五十人を動員した。市は五日に開催予定の「世界パラス会議」に向け、同日午後八時に作業が開始された朝公園では、ホームレスらから激しく抵抗があった。午後十時から、朝公園で市職員や警備員の計四百四十人、大阪城公園で計二百五十人を動員した。



大阪市職員らともみ合うホームレスや支援者 (30日午前、大阪市西区の朝公園)

## 不法占有と居住権対立

11003年の厚生労働省「住居の侵害」として市を提訴。あつたはかり。判決後、朝公園と天城公園の計九人、大阪府は約二万五千と、訴え、今も最高裁で係争中。市側は登録を保留。一公園。市は登録を保留。一公園。市は登録を保留。一公園。

市側は、朝公園で市職員や警備員の計四百四十人、大阪城公園で計二百五十人を動員した。市は五日に開催予定の「世界パラス会議」に向け、同日午後八時に作業が開始された朝公園では、ホームレスらから激しく抵抗があった。午後十時から、朝公園で市職員や警備員の計四百四十人、大阪城公園で計二百五十人を動員した。

## 市「判決とは別」地裁は住民登録認めたが...

二カ所増やし計五カ所にするなど支援策を拡充。ただ大阪府弁護士会は「自立支援センター」ではボランティアが十分に保護されないなどとして話し合いを求める。提訴はホームレスを支援する民間団体「住居権者連帯」が、大阪府を相手取り提起した。地裁は住民登録を認め、その事情に配慮すべきだ」と語っている。

大阪府は「自立支援センター」ではボランティアが十分に保護されないなどとして話し合いを求める。提訴はホームレスを支援する民間団体「住居権者連帯」が、大阪府を相手取り提起した。地裁は住民登録を認め、その事情に配慮すべきだ」と語っている。

## 法人税3700万円を脱税

大阪地検 容疑の飲食店経営者逮捕

大阪地検特捜部は三十日、法人税約三千七百七十万円を脱税したとして、大阪府を相手取り提起した。地裁は住民登録を認め、その事情に配慮すべきだ」と語っている。

不明者の捜索活動終了。ホームレス下宿場発見。不明者の捜索活動終了。ホームレス下宿場発見。不明者の捜索活動終了。ホームレス下宿場発見。

# 防衛施設庁元幹部を聴取

## 東京地検 受注調整関与の疑い

防衛施設庁元幹部の聴取。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。

防衛施設庁元幹部の聴取。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。

防衛施設庁元幹部の聴取。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。

防衛施設庁元幹部の聴取。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。

防衛施設庁元幹部の聴取。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。東京地検は受注調整関与の疑いがあるとして、東京地検で聴取を行った。

## 1月30日になされた駒公園における野宿者テントに対する行政代執行について

2006年2月6日 駒公園自治会

前略 今回の騒動で地域の皆様大変なご迷惑をおかけした事を、深くお詫び申し上げます。さて、私達に対するいろいろの批判なり意見がありました。それについて、私達なりの考えをここにのべようと思えます。

公園内にテントがある事により子達を公園で遊ばすのに不安を感じるという発言です。この発言には偏見と差別を感じました。私達があれほどテントを必死で守ろうとした。それは、この寒空に駒公園を追い出される事が私達の命にかかわるからであり、公園とその周辺地域がどれほど私達にとってだいじであるかを表わしています。周辺地域でアルミ缶、ダンボール、古新聞などを集め、日々の生活の糧としていたのです。

支援の団体の方々協力により駒公園には自治会がありました。自治会では地域に迷惑をかけないという事が頻りに話しあわれ、月1回の公園と周辺の掃除をまいりました。地域の人にきらわれてはテントを守ってゆけない。生きてゆくための糧を得る場所を失う。この事をわかってほしいと思えます。

次に報道関係の方々がいわれている自立支援センター、シェルターにはいらぬのはわがままであるという発言であります。この発言を聞き、報道関係の方々がいかにこの問題に関して知らなすぎるか思いしらされショックをうけました。

生活の糧を得るためにしている事を私達は仕事といっています。仕事をし、月2～3万をかせぎ今日も生きています。よりそれなりに満足してきました(一般の方からみれば、電気もガスもない生活は大変だ)。かりに報道関係の方々がいきなり今の仕事をやめなさい、〇〇工場働きなさいといわれたらどうしますか。私達が自立支援センターには入れといわれるのも、これとおなじように思うのです。それなりに満足しているのに、考えてしまいますね!

次に大阪城のシェルターです。その前に(何年もかかり、どこに何が何時にできるかをしらべてきた)私達の仕事について説明しなければいけません。

- (1) アルミ缶を集める人 (2) ダンボールを集める人 (3) 古新聞、雑誌、古本を集める人 (4) 食物、古着を集める人 (5) 銅などの非鉄を集める人

このようにいろいろな仕事をしている仲間がいます。

私達がかりに(1日、飯とつけもの1食くれる)シェルターに入っても生活の糧は自分でかせがなくてははいけません。シェルターにはアルミ缶買取場所がありますが、他の物は買いとってくれません。今までなら10分ぐらいで売りにゆけたのが、シェルターからだると4～5km もりヤカー、台車をおしていかなければなりません。シェルターには、ましてりヤカーなどおく場所もない。ここで生活をしてゆけますか。

ここで地域の皆様や商店街の方々いままでの支援ありがたく感謝しております。食物、アルミ缶、古新聞などを、いただききました。「死んだ夫の古着です。きてください」と、わざわざテントまでもってきていただいた方もいらっしゃいました(このような方々は決して外に向っていわれませんが、私達を理解し支援してくださいました)。今だに失われぬ、日本人のやさしいおもいやりを感じます。ありがとうございました。

次にのべる事が一番だいじな事です。代執行だけを強調され報道されましたが、いったいこんどのバラ博が必要であったのかどうかという問題です。公園には、美しい赤土の市民のためのテニスコートがありました。行政はこれをつぶし、何十年も生きてきた木を切り今も切っている。観光客のため、外国からのお客様のため、大阪のイメージアップのため、何十億もの税金をつかい、行政の顔は市民にむけられていますか?

阪神大震災以後大阪でも東南海地震に対する防災がさげばれています。バラ博、防災の事も考えながらの工事とはとても思えない。道路に看板があります。「緊急避難場所駒公園」公園はフェンスの中にあります。バラ博工事が終了するまであのフェンスはある。地震は、いつ起るのか。だれか知っている人はいますか?それとも役人は知っているのか?

バラをうえたやわらかい土の上に仮設住宅は建つのか?何年もかかって、踏みかためられたテニスコート。根のはった土の上ならしっかりと建つ。冬の寒い日、電気、ガスがだめでも、木があれば寒さをしのげる。夏の暑い日は木陰にはいればいい。夏の駒公園、群をなして蚊が飛びかっている。公園事務所はそれを放置している。震災があれば、蚊は病原菌をまきちらしますよ。

小泉さんのまねではないが民主主義の政治下では協調と対話が必要であり、対話をするふりをし協調性をもたない大阪市。最後に開市長に言いたい。あなたのおじいさんは市民に感謝され歴史に名を残しました。日本人の恥の文化を知った方でありました。弱い立場の人々をいじめおいつめ、最後はどのような結果になるのか。過去の歴史を知っている方ならわかるはず。自分の名だけを上げようとする人は、結局悪名だけを残す。恥とはなにかをしらないあなたが望にはいる時、どんな顔をしておじいさんや先祖の方々とお会いになるのですか。

「全国からの支援ありがとうございました。」

駒の桜は美しい。ましてそれを観る人々は桜にまけないほど整然とならびすわり、酒を飲み美食し、やさしくおもいやりの心で野宿者にテント生活者にふるまい美食をわけた。その光景は、桜の下で1つのものでとけてゆくようだった。今は桜も人をこぼすフェンスの中にある。

## 駒公園・大阪城公園での行政代執行による野宿者強制排除に対する抗議声明

2006年1月30日、大阪市は駒公園・大阪城公園の野宿者約20名に対し、700名近い職員・ガードマンおよび多数の警察官を動員し、行政代執行による強制排除を強行した。

排除の過程で、1名が「傷害」容疑で不当逮捕され、3名が救急搬送(うち1名はガードマンの暴行で全治1ヶ月の骨折という重傷)、多数が打撲等の軽傷を負った。最後まで自分のテント・小屋に残ろうとした仲間を引きずりだされ、立会いすら認められず、離れた場所から自分の家がズスタに破壊され、荷物が放り出されていく光景を目撃させられた。

われわれは、大阪市によるこの非道を、全身からの怒りを持って糾弾する。厳寒のさなか、野宿の仲間から家を奪い、路上へと叩き出したことは、どのような口実を持ってしても許されることではない。毎年200名以上の野宿者に路上死を強いている大阪市は、どれだけ仲間の命を奪えば気が済むのか。

駒の仲間、大阪城の仲間たちは、これまで繰り返し話し合いを求めてきたにもかかわらず、大阪市はその声を一切無視して排除に踏み切った。追い出しの「代替策」として市が提示してきた大阪城公園シェルター、自立支援センターは、わずか数ヶ月の期間後には退所させられ、再び野宿に戻らざるをえない施設である。入所と同時に「二度とテントを張らない」という誓約書を書かされ、テントを潰される。

入所中も、行政による退所後の仕事の保障はない。施設住まい、高齢というハンデを背負いながら職安に通い、結局職を見つけれなかった仲間は、「自助努力」が足りなかった」というレッテルを貼られ、再び路上に放り出される。1日1食、2畳足らずのスペース(シェルター)など、劣悪な居住環境と合わせて、「排除の言い訳」という性格を持った施設であることは明白である。

このような実態を肌身でよく知っているからこそ、大半の野宿者は入所を強要する職員の「説得」を拒否し、今回の強制排除に抗議するとともに、抜本的な失業対策や生活保護の無差別適用を求めて声をあげてきた。「テントを潰されたくない」というかれらの思いは、けっして、一部のマスコミが報道しているような「わがまま」によるものなどでは断じてなく、生きがいのための叫びなのだ。

1月27日の公園テントでの住民登録を認める地裁判決にもかかわらず、大阪市は排除を強行し、許しがたいことに代執行当日に控訴を行った。行政が抜本的な対策を行わず、排除を繰り返すなかで、テントでも生きていく権利すら保障されないというならば、路上死以外に何があるというのか。

そもそも、莫大なカネを投入して進められる『世界パラ会議』『緑化フェア』のための公園整備は、一体誰のためのものなのか。代執行手続き開始後の1月11日、ゆとりとみどり振興局による官製談合事件が明らかになり、課長ら4名が逮捕されるという事態に発展した。汚職にまみれたゆとりとみどり振興局に、野宿者の生命を踏みしめる権利などない。

今回の代執行は、けっして最後まで残った20名のみたたかいはなかった。もともと駒で40名以上、大阪城で700名近くいた野宿の仲間たちは、3年前のシェルター開設から代執行に至る過程のなかで追い散らされ、一部は確実に路上死を強いられていったのである。その仲間たちの無念を胸に、そして今回、大阪市のなすがままに代執行を許せば、さらなる排除の危機に晒されていくであろう市内1万人の仲間たち、全国3万人の仲間たちのために、20名の仲間は最後まで残り、全国から結集した仲間とともにたたかいたのだ。

現場に残った仲間たちだけではない。大阪市の暴挙に対し、全国そして世界各地から抗議が集中するとともに、激励の声が寄せられた。代執行を契機として、われわれの結びつきはむしろ強まったのだ。

大阪市側の圧倒的な人員・物量にもかかわらず、駒の団結テントに結集した約100名は早朝8時からの攻撃に対し、6時間以上持ちこたえ、当初の大阪市の計画を完全に転覆させ、その非道さをすべての人々の前で明らかにした。この30日のたたかいは、こうした仲間の思いと、多くの人々の支援と、団結があってこそ可能だった。強制排除を止めることはできなかったが、決して、われわれは負けたわけではない!

大阪市は、今回の件からなんら学ぼうとしていない。代執行と平行して、30日早朝に駒の仲間を受け入れるために設置した扇町公園のテント4張りを撤去し、また抗議行動に参加していた西梅田公園の仲間のテント1張りを報復的に撤去し、さらに多くの仲間が抗議行動に参加していた西成公園で、生活妨害のためにテントを囲むフェンスを設置した。

31日にはテント撤去の抗議と返還要求のために向かった仲間たちを、北部方面公園事務所は中にすら入れず突き飛ばし、暴行した。同日、南部方面公園事務所は長居公園のテント村に約30名と車8台で押しかけ、駒の仲間の受け入れのために改築したテントを潰そうとした。

2月1日に市が発表した文書において、ゆとりとみどり振興局は「テント・小屋掛け等は景観を損なうのみならず、樹木や草花に悪影響を及ぼしていることや、酒に酔って騒ぐなど、周辺住民に不快感や不安感を与えて」いるから撤去した、などと恥知らずにも開き直り、みずから野宿者に対する差別と偏見を振りまいている。

また、代執行の際に職員・ガードマンが行った数々の暴行にはいっさい触れないまま、前日深夜にフェンスを閉鎖し、園内を密室状態にしようとした職員に対する抗議のなかで、1人が軽傷を負ったことのみを取り上げ、「暴力行為は決して許されるものではありません」などと一方的な被害者であるかのごとく訴えている。

大阪市よ、あなたたちの行っている殺人行政こそが、最大の暴力ではないのか。

われわれは、「もうたくさんだ!」と叫びたい。

こんなことが、いつまでも続くのを、絶対に許してはならない。

われわれは、これ以上の排除と人殺しをただちにやめるべく、大阪市に要求する。

そしてこのような事態がつづくかぎり、仲間の命と暮らしを守り抜くため、ともに全力でもって抵抗していくことを、ここに宣言する。

(失業と野宿を考える実行委員会)

- ◆2003年7月23日 ビラ (失業野宿実有志名で、おそらく初めてのビラ)
  - ・仲間が公園事務所から聞いた話として『バラの博覧会のために整備工事を行うので7月31日までに立ち退いてほしい』
- ◆7月25日 寄り合い (おそらく最初の寄り合い)
  - ・「うつぼに住んでるモンで組合でも作ったらどうや」と住人から提案があった。「まともらんとひとりじゃどうもならん」「カンパもしやなあかん」「交通費とかもあるし」「看板つくる」「のぼり立てよ」「お茶飲んだり相談のったり」
- ◆7月25日 公園事務所押しかけ (おそらく初めての押しかけ)
  - ・メモに残してある公園事務所所長田中の発言として、「あくまで話し合いの上で除去するという意味だ。強制排除は今のところ予定ではない。みなさんに不安感を与えた。言葉足らずだった。」
- ◆8月2日 第2回押しかけ
  - 公園事務所との間で、①工事については話し合いをしながら進めていくこと、②強制排除は考えていないこと、を確認した。
  - ・仲間から「ちゃんと説明会を開いてくれ」との声。公園事務所「25日までに説明会を開くかどうかも含めて連絡する」
- ◆8月19日 うつぼ公園自治会結成会
  - ・自治会は「公園整備工事ともなう、行政による一方的な追い出しに反対する」ことなどを確認した。
- ◆9月19日 第1回「説明会」(2度の押しかけと合わせて3度目の話し合い)
  - ・バラ園周辺の10数軒のテントの立ち退きを迫るものだった。補償も生活保護などの代替措置の説明もなく、移設のための配慮もなかった。
- ◆10月1日 第2回説明会
  - ・公園事務所、「工事はテント・小屋の移動をしない方法でやる」と表明した。自治会、「移動ナン」を勝ち取った。
- ◆2005年6月14日 西成公園工事説明会。公園事務所、無人の芝生に向かって「説明」

- ◆7月7日 西成公園団体交渉
- ◆10月4日 公園事務所が文書で工事を名目とした立ち退きを求めてきた。期限は11月30日。同時に、うつぼ公園自治会に対して、団体交渉はせずに個別訪問をすると通告してきた。大阪城公園でも同様。西成公園では、「10月30日までに撤去しろ」というビラが天王寺公園事務所によって配布された。第1期工事を11月に着工、3ヵ月で完工したあと、第2期工事に入るという内容。
- ◆1月5日 『弁明機会付与の通知書』(弁明期限1月11日)
- ◆1月11日 初公園の4名、大阪城公園の2名が原告となり(のちに原告は17名に)、行政代執行手続きの中止と仮差止め処分を求める訴状を大阪地裁に提出。裁判所に仮差止め申し立て(13日に却下)。同日、公園事務所へ抗議申し入れ行動。
- ◆1月13日 『除却命令』除却期限は1月17日
- ◆1月18日 『戒告書』戒告期限は23日
- ◆1月24日 『代執行令書』
- ◆1月27日 初公園で反排除総決起集会、大阪役所に向けてデモ行進、抗議行動と2次集約署名の提出、住民票裁判の地裁判決勝利、エルおおさかで「追い出し許すな!野宿者に生きる権利を!1・27集会」
- ◆1月30日 行政代執行
- ◇2002年11月11日、大阪城公園。テントを新築した仲間に対し職員がカッターナイフを取り出して「撤去しろ」と脅すという事件(市による処分も本人の謝罪もなし)。
- ◇2004年10月27日、大阪城公園。テントを建てようとした車イスの仲間を職員らを取り囲み、「死にぞこない」などと暴言を浴びせかけ挑発し「傷害事件」を引き起こさせ、逮捕・実刑に追い込んだ。
- ◆4月21日 天王寺公園強制撤去
- ◆5月2日 日本橋公園強制撤去

バラ会議・緑化フェアのための

強制排除を許すな!

反排除全国集会

■2006年5月12日(金) 午後2時30分~午後5時  
(集会後、デモ)  
くしオ大阪中央セミナーホールにて  
(大阪国際交流センターから徒歩5分)

失業と野宿を考へる実行委員会

連絡先: 大阪市西成区太子2-1-2 釜ヶ崎医療連絡会議  
(TEL/FAX) 06-6647-8278  
E-mail: kamaPat@infoseek.jp (釜ヶ崎パトロールの会アドレス)



# 野宿者の命と暮らしを奪う強制排除に反対し、業務のボイコット・サボタージュを！

大阪市の後場で働くすべての労働者のみなさん！

朝公園のすべてのテント(約20軒)、大阪城公園の一部のテント(約5軒)に住む人びとに対して、大阪府は本日(1月24日)、「公園整備工事」を理由に「行政代執行令書」を配布しました。大阪府は30日までに数百名の市職員・市従業員・ガードマンを動員して強制排除の方針です。

失業と貧困によって野宿を余儀なくされた彼ら(私たち)は、市内で年間200名をこえる野宿者が路上死を強いられるなかで、生きるために公園や路上にテント・小屋を建て、アルミ缶や雑誌、廃品回収などの仕事で生計を立てながら、隣近所で助け合い自分たちの力で生きてまいりました。

失業こそが野宿の最大の原因です。首切り・リストラの進行、非正規雇用の増大といった流れのなかで、仕事を失い野宿にまで追いやられる人びとは今後も増えつづけます。関西一市長の下で大幅なリストラが断行されようとしている現在、失業・野宿の問題はもはや他人事ではないことはみなさんも感じていることだと思います。失業や不安定雇用化と「自己責任論」は、労働者の権利や力を切り縮めて資本家、大企業をより儲けさせるためにつくらされた意図的な政策です。「自立支援」と称して個々の「自己責任」に転嫁して問題を隠蔽する今の「ホームレス自立支援特措法」やその事業を廃止し、政府・行政が責任をとって「特別就労事業」の拡大をはじめとする抜本的な失業対策事業をきっちり行ない、かつ「行路病院たらいまわし」や更生施設収容など生活保護の差別的運用を撤廃しない限りは、野宿者問題は絶対に解決しません！

私たちは、強制排除に反対する署名運動を15日から開始し、短期間で1114名の方々から暖かい署名をいただきました。先日(23日)、市長室の秘書課に署名を提出した後、野宿者の暮らしを日々見てきた大阪市の現業労働者の労働組合「市従」の組合事務所で、「野宿とは、私たちがあなたたちと同じ労働者です。まず、同じ目線に立ってほしい」「強制排除は野宿者を確実に路上死へ追い込むことになる」「首をかけたでも、労働者に職場放棄を呼びかけてほしい」という私たちの必死の願いを率直に伝えました。しかし残念ながら、「いいわけ」に終始する組合幹部の言葉や態度からは誠意を感じることができませんでした。時間はもういくらも残されていません！

私たちは大阪市の後場で働くあなたたち労働者に聞きたい。いったい何のための工事ですか？野宿者から生きる権利＝居住権と暮らしを奪い、路上死へ追い込んでいくこと、「業縦」や「カネ」のどちらが大事なのですか？プレハブの大部屋に間仕切りした薄い板壁の1畳半の部屋に案内され、1日白飯1食、荷物はダンボール3個まで、犬は1匹までなどと言われてこのシェルターという収容施設に住めますか？あなたが、あなたの上司から、自分自身の家と家族に対して同じようなことをされたら、どうしますか？

私たちは大阪市の後場で働くあなたたち労働者に呼びかけたい。どうか、彼ら(私たち)から生きる権利と暮らしを奪わないでください。行政代執行の「業務」とは人間を「モノ」として処分する「業務」そのものです。人のいのちを奪っていく行為に加担しないでください。強制排除して路上死へ追い込んだ「業務」で得た手当てがあなたの家族を養うのですか？テントを破壊する行為は、あなた自身の良心や人間性をも破壊し、恐らくこれからのあなたとあなたの家族の人生に深い影を落とすこととなります。まだ間に合います。そんな職務命令など拒否し、ボイコット・サボタージュしてください！人殺しを命じる上司に対して闘ってください！

失業と野宿を考える実行委員会：090-9700-0296 / 06-6647-8276 (釜ヶ崎医療連絡会議) / kamaqai@infoseek.jp / http://www.geocities.co.jp/WallStreet/9278/ (釜ヶ崎パトロールの会)

(釜ヶ崎医療連絡会議 / 釜ヶ崎炊き出しの会 / 釜ヶ崎パトロールの会 / 長居公園仲間の会 / 高倉谷特別就労組合準備会 / 朝公園自治会 / 大阪城公園よろず相談所 / 西成公園よろず相談所)

## 抗議文

大阪市ゆとりみどり振興局長 殿  
天王寺動物公園事務所長 殿

5月2日、大阪市・天王寺動物公園事務所は、同市浪速区に所在する日本橋公園で野宿生活をおくる5名の労働者の4軒のテント・小屋を、暴力的に破壊・撤去し、同5名の野宿労働者の所有する所持品や生活必需品などを撤去するに至った。

天王寺公園事務所によるこの行為は、明らかに、違法なものである。

よって、私たちは、ここに、天王寺公園事務所に強く抗議するものである。

天王寺公園事務所は、この間、前記日本橋公園で野宿生活をおくる労働者らに「撤去承諾書」なるものに署名することを連日のごとく強要し続けてきた。大阪市行政が、公園で野宿生活をおくらざるをえない労働者に、テントをたたんで公園から立ち去ることを求めるならば、当然にして、労働者がその後野宿することのない「対策」を労働者に示し、本人と十分に話し合い、本人の真の同意を得て、ことを運ぶべきである。にもかかわらず、日本橋公園において天王寺公園事務所は、こうした行政の義務と責任を果たすことなく、ただただ追い出しをはかるといふ暴挙を行ったのである。

天王寺公園事務所の不当な対応に対し、同労働者と支援団体・野宿者ネットワークは、4月20日に大阪市弁護士会に「人権救済申立」を行っていた。また不当な排除を即刻中止するよう支援団体(野宿者ネットワーク・釜ヶ崎医療連絡会議・釜ヶ崎キリスト教協友会・釜ヶ崎パトロールの会・釜ヶ崎反失業連絡会・長居公園仲間の会・西成公園よろず相談所の連名)や弁護士などの法律家有志が、再三「申し入れ」を行っていた。5月2日の違法な天王寺公園事務所による撤去行為の現場責任者である天王寺公園事務所・阿部課長もその事実を認知していた。

にもかかわらず、5月2日、天王寺公園事務所は、阿部課長ら十数名により、日本橋公園の野宿労働者とその生活の基盤であるテントを撤去・破壊・排除したのである。天王寺公園事務所による同日の行為は、事前に、労働者に一切知らされていない。また、同日においてすら、労働者に一切の告知もなく、いきなりテントの破壊にはいるという非道なものであった。

### 大阪市市有地

# 暴力団の占有20年放置

「暴力団の占有20年放置」は、大阪市市有地の一部が、暴力団に占有され、20年以上放置されているという問題について、大阪府警が調査を進めている。また、大阪府警は、暴力団の占有を解消するため、府警指摘で仮処分申請を行う方針だ。

### 売却交渉 93年に途絶

## 府警指摘で仮処分申請

売却交渉が93年に途絶した市有地について、府警は指摘状を送り、仮処分申請を行う。これは、暴力団の占有を解消するための重要なステップと見られている。

### 緑化フェアで野宿者排除

緑化フェアの開催に際して、野宿者のテントが撤去された。これは、野宿者の生活を脅かす行為として、労働者らから強い抗議が寄せられている。

### 大阪市の公園 工事向け

公園の整備工事に向け、野宿者のテントが撤去された。これは、公園の整備と野宿者の生活との衝突を浮き彫りにしている。

エコー均一プライス。万円均一。あす19日(木)→24日(火) 8階催場 (朝日ビル4F) 家具・敷物大集結

そのため、公園事務所がはじめてに破壊を始めたテントには、2名の労働者がテントの隅部にいたのである。天王寺公園事務所は、それを知りながら、テントの破壊を強行した。しかも「ちょっと待てや」と訴える労働者の声を無視し破壊を続行し、その労働者が着の身着のままの状態から出ざるを得ない状況に追い込んだのである。

また、4軒のうち1軒は、居住する労働者が入在であったため、本人が最低限必要とする所有物を持ち出すこともできなかった。

この一連の天王寺公園事務所の撤去行為は、野宿労働者の人権を認めず、野宿労働者の生き抜くためのテント・所持品をまいざる違法行為である。テント内部に野宿労働者が存在するままにテントを破壊するなど、およそ人道に、断じて許されるものではない。公園を追われた野宿労働者、しかも生5用品まで奪われた野宿労働者に、路上で野たれ死にを強要するものである。

天王寺公園事務所は、テント撤去後、テントが位置した場とその周囲に、杭を打ち込みロープを張りめぐらし「立入禁止」を明示した。よって、その場所は、誰一人、使用することができない場となっている。地域住民も含め誰一人立ち入ることができない場を公園内に「設置」する公園事務所の行為は、「野宿労働者のテントが公園使用を妨げている不法占拠物件」と言う公園事務所の言辭を自ら破綻させるものであり、野宿労働者のテントを撤去する根拠ではあり得ないことを自らの行為で明かしているといえる。

付言すれば、天王寺公園事務所管轄の複数の公園で、このような「立入禁止」箇所が設けられ、公園敷地全域をフェンスで囲い込んでいる公園すら存在しているのである。

天王寺公園事務所による野宿労働者排除の行為は、この間、天王寺公園などでも強行されており、多くの野宿労働者は、生命を支える生活基盤を奪われ、路上での生活を強いられている。野宿労働者に「死ぬ」と言わんばかりの暴挙である。天王寺公園事務所は、ただちに、不当かつ違法な撤去をやめよ！

天王寺公園事務所は、違法な撤去行為によって持ち去った日本橋公園野宿労働者5名の所持品を、ただちに本人に返還せよ！ テントを元通り復元せよ！ 5名の野宿労働者に謝罪せよ！

以上、強く抗議するとともに申し入れる。

2006年5月8日

野宿者ネットワーク  
5・8天王寺公園事務所抗議行動参加者一同

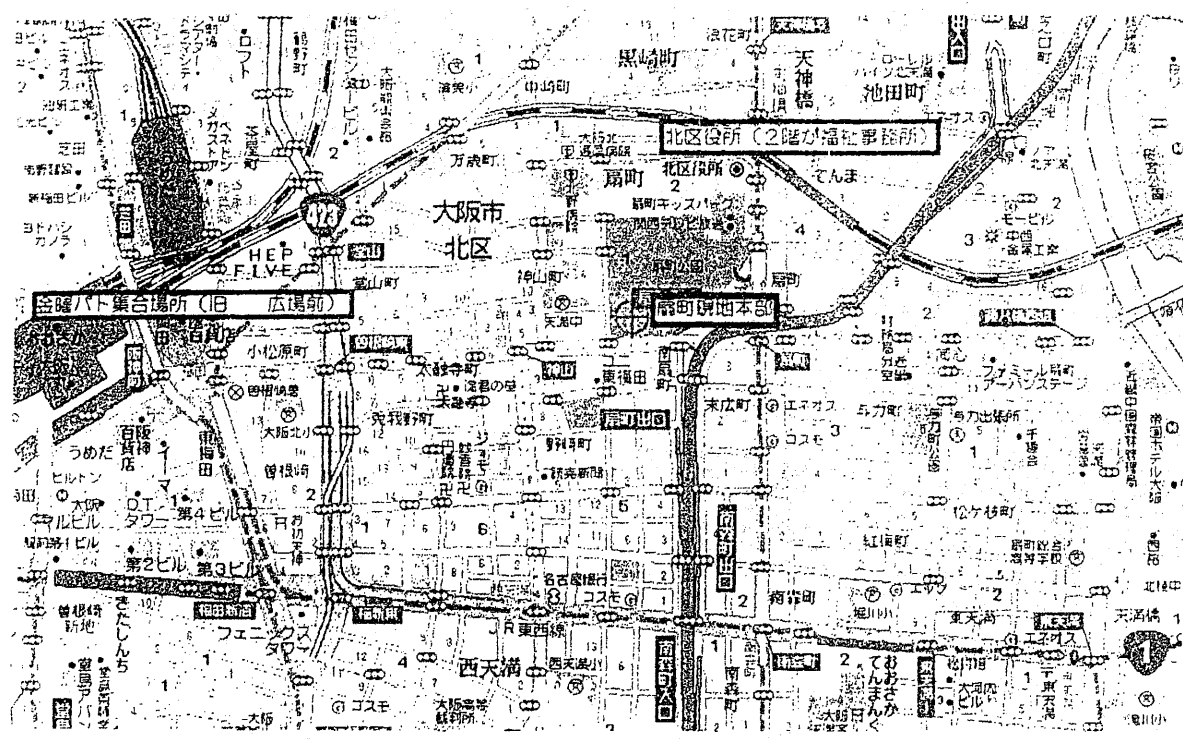
## 選挙を拒否し、占拠せよ！日雇・野宿をはじめとする世界中の「持たざる者」と共に、今秋の闘いを準備しよう！！ 団結を求めて、9・4「仲間の日」に集まろう！

無料医療券で診察しよう！  
体の調子がおかしいと感じたら、すぐに福祉事務所や無料医療券を発行させ、診察を受けよう。また、歯科や眼科、産婦人科等にも無料で診察できる。メガネも無料で作らせることができる。生活保護の相談や申請もやっている。毎週月曜日に行う福祉行動に顔を出さずか、仲間の日やパトロールの時に釜パトに相談して欲しい。

無料医療券で診察しよう！  
体の調子がおかしいと感じたら、すぐに福祉事務所や無料医療券を発行させ、診察を受けよう。また、歯科や眼科、産婦人科等にも無料で診察できる。メガネも無料で作らせることができる。生活保護の相談や申請もやっている。毎週月曜日に行う福祉行動に顔を出さずか、仲間の日やパトロールの時に釜パトに相談して欲しい。

### なかまたち！

ここ数年の夏は、地球温暖化や都市ヒートアイランド現象の影響で、異常な暑さの続く毎日だが、みんな体は大丈夫だろうか。ここ2、3日、昼夜の気温の差が激しいので、昼はなるべく日陰などに陣取り、夜は少し厚着をして寝て、体の負担を少しでも軽くしよう。日々のアオカン（露宿）に加え、夏の暑さは心身の疲れをピークにしているはずだ。体を壊しては元も子もない。カン取りや特掃、エサ取り、日雇い仕事などもあまり無理しないで、マイペースで働こう。



悪や有事法制など戦争国家化、大企業の正社員保護優先と失業者切り捨て、靖国・天皇制容認など今の自民党政治と同質の民主党は底辺下層労働者の側では断じてない。釜ヶ崎労働者は、誰が味方か敵かを自らの嗅覚で的確に判断し、行動している。  
住所を奪われ選挙権すら保障しないことを前提とする寄せ場や飯場の日雇労働者や、路上や公園の野宿労働者に残された道は頭を下げて「日本国民」に再統合してもらって選挙に行くことではない。それではオレたちを「景気の安全弁」や「低賃金労働の基盤」として使い捨てることで繁栄してきた資本主義や国家権力に正当性を与えるようなものだ。むしろヤツらの「慈悲」と「イカサマ」をキツパリ拒否し、日雇・野宿労働者のみならず、失業者、フリーター、外国人労働者、セックスワーカー、難民、在日コリアン、沖縄、アイヌ、障害者、精神病患者など常に国家に疎外・迫害・搾取され中心から外されてきた「持たざる者」による自主・自律の空間を日々闘い取り、無数に拡大し、日本国家を侵食し尽くすことだ。その闘いの過程で「国は変わる」とし、オレたち「持たざる者」のための「構造改革」は進んでいく。  
反失業・反グローバル資本、反資本主義の旗を高く掲げる世界中の「持たざる者」の国境を越えた団結で、戦争と失業を押しつける国家とグローバル資本の未来に終止符を！なかまたち！選挙を拒否し、占拠せよ！

### ★スケジュール

- 9月4日(日)朝10時、扇町集合。広域パト(雨天中止)
- 夕方16時、仲間の日(昼13時、炊事準備)
- 9月5日(月)朝8時半、扇町公園集合。北区福祉行動
- 9月9日(金)①18時半、立川ビル入弾圧報告集会 (エル大阪701)
- ②21時半、梅田・福島パトロール(雨天決行)
- JR大阪駅中央改札口前集合。

### 大型台風接近中！注意を！

大型の台風14号が日本列島に接近している。週明けから九州に上陸すると予報にはあるが、関西地方も激しい雨と突風が予想される。油断せずテントや荷物置き場の補強を怠らないように。ラジオや街頭のテレビ、新聞などで台風の動きをじゅうぶん注意して見て欲しい。

### 悪質福祉ブローカー情報求む！

最近、NPOやボランティアを名乗り、「生活保護を取らせてあげる」と笑顔で近寄るグループに出会ったことはないだろうか。親身に相談に乗るふりをして、事務手数料だ、材料だ、食費だ、様々な理由を付けて高額な借金の「契約書」にサインさせたり、悪徳不動産屋と結託して敷金も取れないようなポロアパットに入居させ、「敷金代」「食費」と称して保護費をピンハネする悪質ポッタクリ福祉業者が路上を徘徊している。注意しよう。ひとの弱味を巧みに利用するヤツらを断じて許すな。もし、そんな話を聞いたり、被害を受けたりした仲間がいたら、釜パトに一報入れて欲しい。

### 選挙を拒否し、占拠せよ！

日雇労働者の街・釜ヶ崎の夏祭りにNPO釜ヶ崎のテコ入れで民主党の幹部が街宣車で乗りつけ演説を始めたが、労働者に野次り倒されていった。排除と収容とケタオチ就労政策のホームレス特措法制定を呼び込み、憲法改

## 野宿ソーラン騒乱走乱！？長居公園に祭りが帰ってくる！ 9・17-18長居大輪祭り！！参加&応援よろしく！！

# 野宿者に住民登録を！ 山内さん裁判への注目と支援を呼びかけます

現在、全国で3万人をこえる人々が野宿生活を余儀なくされています。その多くは失業によるもので、仕事を失い、住む家と暖かい衣類を失った人々にとって、「住所がない」という事実がその苦境に追い討ちをかけています。路上や公園に住みながら、仕事を探そうと困窮している人も多く、生活保護の申請に行っても門前払いされるか、施設への入所を強要される状況がまだまだあります。年金を申請する権利があるにもかかわらず、住所確認ができないことから受け取れないという人もいます。これら生存にかかわる問題のほか、選挙権の行使やパスポートの取得、国民健康保険への加入といった市民の諸権利からも野宿者が「住所がない」として排除されています。

私たち釜ヶ崎パトロールの会はこれまで、パトロールや共同炊事場の場で「仕事探しに連絡先があるんだけど」「家はもう年金で取れるんだけど住所がないから…」といった相談を野宿の仲間から受けた際、メンバーの自宅兼事務所を「一時的な住所の置き場」として提供してきました。しかし、全国各地の野宿者運動団体が当たり前に行って来た支援活動の一環であるこの取り組みを、大阪府警は運動つぎの口実として使おうとしてきました。2004年2月17日早朝、釜ヶ崎のメンバー宅に大阪府警の公安刑事十数人が突然踏み込み、「電磁的公正証書原本不実記録同使用幫助」容疑で不当な家宅捜索を行い、逮捕したのです。

前後して、住所を借りていた野宿の仲間たちも任意同行を求められ、長時間の取り調べを受けました。内容は運動の前身や人間関係についてなど、容疑と関係のないものがほとんどだったといえます。高いかかりの不当逮捕で裁判に持ち込めるわけもなく、逮捕されたメンバーは2日後に釈放されました（のちに不起訴が決定）。ところが、警署は大阪府北区役所に圧力をかけ、野宿の仲間の住民登録を抹消させようとしてきました。逮捕されたメンバーにも電話を繰り返しかけ、「住所を消したら起訴するのは勘弁してやるけど」と脅しをかけてきました。

公安警察の理不尽な脅迫を毅然として拒否するとともに、このままでは住民登録を抹消すると大阪府からの文書を前にして、私たちは話し合いました。結論として、じゃあ今住んでるところに住民登録を移させてもらいましょう、ということになりました。そこで扇町公園のテントに住む山内さんが公園への転出届を出したところ、北区役所はこれを却下してきました。2004年12月に棄権されてしまいました。

そこで、このまま黙っているわけにはいかないと、私たちは裁判を起すことにしました。前例がほとんどありませんでしたが、これが今回の裁判の発端です。行政はこれこれと失業問題に対してはともかく、対策を取らずに排除し切ろうと、野宿に追いやる人々を救済せず、生かして来ませんでした。そればかりか、生きていくためにテントやダンボールで自らの生活を確保してきた野宿者に対しては「公園適正化」の名のもとに容赦なく追い出しを進めてきています。自立支援センターやシェルターといった野宿者支援施設は追い出し、排除の受け皿にすぎず、劣悪な住環境と限られた入所期間のうち、再度路上へと野宿者を放り出すシステムの一端にすぎません。

問題は、直接的な追い出しにかぎりません。工事用フェンスや野宿禁止の看板を張り巡らし、野宿をあらかじめ禁止する。警察や行政や警備員によるひっきりなしの巡回（といふ名の脅迫）、野宿からの生活保護を認めない福祉事務所。寝ている人に花火を打ち込む。

釜ヶ崎パトロールの会 06-6374-2233/090-9700-0296 kamapat@infoseek.jp / http://www.geocities.co.jp/WallStreet/9279/

## テント強制撤去

# 野宿者ら賠償提訴

## 大阪市「自立支援法に違反」 相手取り

大阪市の扇公園（西区）と大阪城公園（中央区）で今年一月、野宿用のテントを同市に強制撤去されたホームレス17人が、居住権が侵害されるなど、ホームレス自立支援特別措置法（以下「自立法」）を根拠として、同市を相手取り、一人一人10万円の損害賠償を求め、大阪地裁に起訴し、賠償を求めた。原告弁護士は「同法を根拠に行政側の賠償責任を問う初め」の訴訟だ。



損害賠償を求め提訴した谷本昌弘さん。段ボールを集めて回る日々だ（大阪市西区で）

訴状によると、同市は一月30日、扇公園に遊歩道などを整備するため、テント

計28張りを行政代執行法に基づき強制撤去した。自立支援法は「公共施設の適正利用が妨げられる時は、ホームレスの自立支援策との連携を図り、必要な措置を」と定めているが、原告側は「納得のいく十分な説明がない」と不正な損害賠償請求に変更した。

## 仕事ないからアパート住めぬ

## 別の公園に移り生活

大阪市に於いて、テントの強制撤去が半年。支援団体によると、扇公園から閉め出された19人のうち7人が別の公園に移り、2人ははりヤカを引きながら野宿生活を続ける。一方で5人が生活保護を受け、2人は市がテナを借り、2人は市が用意した仮設避難所に入所

したが、就労のめどは立っていない。残る3人の行方はわからないという。損害賠償を求めるホームレスたちは「強制撤去は野宿者の切り捨て」と訴える。「大阪市のやり方は信用できない。徹底的に闘います」。原告で、大阪城公園から長居公園（東住吉区）に移った藤田則義さん(55)は言う。30年近く同市西成区の簡易宿舎に住み、日曜労働をしていたが、パブル崩壊後の不況で仕事を失い、8年前からホームレスになった。自ら約4万円、藤田さんは自ら野宿に使う段ボール

「むしろは難民。仕事がないからアパートにも住めない。」「を追い出されても別の場所で野宿を続けるしかない」と話す。谷本昌弘さん(61)も原告の一人。3年間住んだ扇公園周辺を離れ、りやかりで段ボールを集めて回る。自ら野宿に使う段ボール

も積み、1週に家を賃貸できないかと思いついた。カマシムリやなとほやいた。全国最多のホームレス6003人(2003年)を抱える市は、半年間の期限付きで宿泊や食事を提供しながら、就労あっせんを行う市内5か所の「自立支援センター」を施策の中心に据える。これまでの入所者総数は3445人だが、退所後の就労自立率は43%にとどまる。市は今後も自立に向けた支援策と連携を図りながら、指導や助言を続け、公園の適正利用を図りたい」として



歴史は繰り返す  
子供・最近近所の子供が頼りないね  
大人―それが子供の成長の果てだ  
(大和郡山・放流児)

代替住居が提供されていないなど指摘。生活の拠点を奪われ、精神的苦痛を受けたと主張している。原告側は撤去前、同地裁に除却（撤去）命令の執行停止を求めた仮処分を申請したが、一月30日に却下された。同時に起した命令の差止め請求訴訟を6月、損害賠償請求に変更した。

自転車を投げ込むなど、繰り返される襲撃事件。野宿者を食い物にする生活保護ジャンパー業者やケチ屋が野宿者を放置する行政。これらの総体が、野宿者に対する社会的排除をかたくなにつづけている。私たちは、野宿者を救済するために、取り取り、野宿者を救済する。野宿者の排除を撤去し、テントを破壊することにおとらず、暴力的な排除といえないでほしい。野宿者の排除を撤去することによって、野宿者（と野宿者支援の）犯罪化という排除の文脈で捉えらることもできるでしょう。普段からの警察による頻繁な職務質問や嫌がらせは、野宿者の仲間なら誰でも経験していることだ。

山内さんの裁判は、かわひのり氏の住民票の問題にとどまらず、見えにくい排除である「住所がない」という不利な状況から出発し、野宿者が受け持っている社会的排除の問題性をあきらかにしている。これまでの経過で、大阪市の態度もまた明らかになってきています。野宿者問題に反対する市民は押し上げたまま、「テントは野宿者の生活の事実として認められたい」と繰り返しているのです。いまま大阪城公園、うつほ公園、西成公園などで行われていたように、山内さんに対し「テントは法令に基づいて撤去命令の対象となるので、民有地の場合より一層不安定な状態である」と主張する姿に、その排除への執念を見取ることが出来ます。

2002年にホームレス特措法が施行されてから3年あまり、いま全国で、野宿者に対する排除の嵐が吹き荒れています。今年1月の名古屋、白川公園での行政代執行による強制排除につき、9月には蒲城市が「野宿禁止条例」を可決し、東京都も同様の条例制定を行うおとす動きがあります。

しかし、失業を生み出す社会構造が変わらない限り、野宿者は新たに生み出されつつあります。排除は向も増えはかりか、路上やテントで生活せざるを得ない仲間から生きる手段を奪い、徐々に死へと追いやっていくのみです。公園での住民登録を勝ち取ることで、行政の動きに歯止めをかけ、野宿者に対しての社会的排除を止めさせていきたいと私たちは考えています。ぜひ、多くのおみなさんに注目と支援をよびかけたいと思います。

## いよいよ判決！

1月27日（金）午後1時16分～  
大阪地方裁判所1007号法廷  
ぜひ傍聴支援を！

【裁判支援カンパ振込み先】  
郵便口座：00930-6-139747（大阪キタ越冬栄）  
※山内裁判支援とお書きください  
【山内さんへの支援の手紙の送り先】  
〒530-0025  
大阪市北区扇町1の1 扇町公園23号 山内勇志  
※これまで、100通をこえる手紙が寄せられています。  
ありがとうございました！



## 1・30 大阪城・鞆公園の野宿者強制排除弾劾！ 仲間の無念を忘れんぞ！パクった仲間を返せ！ 新たな排除を許さず、さらに団結を打ち固めよ！

### なかまたち！！

鞆公園・大阪城公園の約20名の仲間に対して大阪市は650人の職員・ガードマンを動員し、強制排除を行なった。2箇所同時に攻撃する等闘いは困難を極めたが、日雇労働者をはじめ150名以上の応援を得て7時間近くも抵抗しぬいた。

現場にいた大阪市の幹部職員を青くさせ、異例の記者会見で大阪市内に「想定外の事態」と言わしめた。いくら排除しても続々と増え続けるオシたちの応援部隊。「大阪市、ひどいぞー」と声をあげて職員やガードマンに抗議する一般市民が数多く現れた。

### 公安のポリ公に指揮されるガタガタの大阪市

右往左往する幹部職員。大阪市の指揮系統はガタガタだった。苛立つ公安のポリ公トモが大阪市の職員やガードマンを怒鳴り散らしながら指揮を執っていた。大阪市は行政代執行法すら踏み外して警察の下請けになり下がった。

### 大阪市の労組「自治労」が強制排除に協力

今回の強制排除は、大阪市の幹部と労働組合「自治労」が一体となって推進したものだ。

労働者を「職務命令」で縛るばかりが、野宿者の強制排除に反対あるいは消極的な一般組合員を労働組合の幹部がたがをはめて強制撤去作業に動員したのだ。なぜ、「二重」で組合が腐ったのか。

### テント生活のホームレス

# 住所は「公園」

## 「生活の本拠」登録認める



# 市の不受理「違法」

### 大阪地裁初判断

ホームレスが住む扇町公園のテント群。住所登録が認められた山内さん（左）が住むテント（右）＝大阪市北区で27日午後、釜ヶ崎パトロールが撮影

大阪市の公園でテント生活をしているホームレスの山内さん（左）が公園を住所とする登録を認められなかったのは違法として、処分取り消しを求めた訴訟で、大阪地裁が27日、公園での住所登録を認め、処分を取り消すとした。西川知一郎裁判長は「テントの所在は生活の本拠として実体を備えており、住所登録の要件を満たしている」として、住所登録を認めないという判断を述べた。

原告側代理人弁護士は「受けやすくなるため、04年から、公園を住所とする登録を認めようとした。大阪市の住所登録を認めたのは違法として、処分を取り消すことを求めた訴訟で、大阪地裁が27日、公園での住所登録を認め、処分を取り消すとした。西川知一郎裁判長は「テントの所在は生活の本拠として実体を備えており、住所登録の要件を満たしている」として、住所登録を認めないという判断を述べた。

判決は、住民基本台帳法の住所登録に関する規定は、生活の本拠を備えることが住所登録の要件であるとし、公園で生活するホームレスは、生活の本拠を備えていると認め、住所登録を認めるべきだと判断した。また、大阪市の住所登録を認めたのは違法として、処分を取り消すことを求めた訴訟で、大阪地裁が27日、公園での住所登録を認め、処分を取り消すとした。

### ★スケジュール

- 2月12日(日) 昼1時  
西梅田公園寄り合い・交流会
- 2月13日(月) 朝8時半集合。  
北区福祉行動
- ※入院したい仲間は荷物を忘れずに
- 2月17日(金) 夜9時半集合。
- 梅田・福島パトロール  
(JR大阪駅中央改札口前集合)

### 「公園民権化」後の天下り先をうかがう労働組合

大阪市と関西財界は2、4年後に民営化の布石となる「指定管理者制度」を鞆公園や大阪城公園、長居公園等の主要な公園管理業務に導入する。労働組合の幹部連中は「民主エの天下り先である主要な公園から野宿の仲間を一掃する」として、激しい抗議活動を行っている。

汚職と厚遇だけでは飽き足らず、野宿労働者の命と生活を奪う人殺し業務に労働者を組合が駆り立てる。まさに最悪最低。労働者階級の裏切り者以外の何者でもない。オシたちは断じて許さない。

### 仲間の生活保護を勝ち取り、新たな排除許さない

この強制排除のあった日の朝、扇町公園と西梅田公園では北部方面公園事務所の手により、代執行の手続きすらとらずにテント5軒が持ち去られた。扇町公園の4軒は、鞆公園の仲間が緊急避難できるように前日建てたものだった。ヤツら大阪市は仲間には死ねとばかり公園からたたき出すばかりか、行き先を奪うことまで殺すことしたのだ。31日、北部方面公園事務所は約500名で押しかけ糾弾し、テントを奪い返した。同時に、西成公園や長居公園でもテント新築を妨害する大阪市の暴行を繰り返して闘い抜かれた。

オシたちは今後も体を張って仲間の命を守りぬくぞ。よーいっすこの団結を求めて闘いを前進させよう！！



## 朗報！弾圧粉碎！旧鞆公園自治会会長Yさん保釈決定！！ 野宿者に住民票を！控訴審で原告山内さんが意見陳述！！ 特就拡大求め大阪府・市へ署名提出・団体交渉！

### 野宿者に住民票を！山内訴訟第一回控訴審

今日、「公園を住所と認める」という画期的判決(1月27日)を不服として大阪府が大阪高裁に控訴し、その第一回裁判が大法廷で開廷された。以下は原告の山内さんが述べた陳述内容だ。

原告として、意見を述べます。

まず言いたいのは、今回の裁判を起すきっかけとなったのはあくまで大阪市の側に責任があるということです。扇町公園で暮らしていた私は、釜ヶ崎パトロールの会と出会い、その支援者の家に住所を置かせてもらっていました。私のように、支援団体や友人の住所を借りるというところは、野宿者にとってはよくあることです。野宿者が差別され、住所がなくては仕事探しや年金受給などがままならないという状況のなかで、これは生きるために必要なことなのです。

しかし、その支援者がとつぜん、2004年の2月に大阪府警に逮捕されてしまいました。私や他に住所を借りていた仲間も警察の事情聴取を受け、数時間にわたってあれこれ聞かれました。支援運動の活動の内容についてなど、住所の件と関係ないことまで聞かれ、運動に対してのいやがらせだということでは明らかだと思いました。

大阪府警は「また実際に住んでいない」ところに住所を移したら逮捕するぞ」と脅し、支援者に対しても「住所を消すよう役所に申し出なければ起訴するぞ」と脅してきました。そのうち、大阪府は大阪府警と結託し、北区役所が「職権で住所を消す」と連絡してきました。そこで私たちは相談して、いま住んでいる扇町公園に住所を移そう、ということにしたのです。そういうわけで、大阪市と大阪府警がこのようないやがらせ・弾圧をしなければ、私がこの裁判を起すこともなかったのではないかと思います。

大阪市の責任はそれだけではありません。裁判でもこれまで繰り返し言ってきたとおり、大阪府は失業や野宿の問題に対してまともな取り組みを行わず、自立支援センターやシェルターといった誰も入らない

### なかまたち！

年度末の繁忙期を越え新年度に入ると予想以上のアプシ失業が釜ヶ崎と野宿現場に蔓延している。飯場餓い殺しを嫌って続々釜ヶ崎に仲間たちが戻り始め、シェルターや炊き出しに並ぶ列が異常に増えている。その動きは大阪駅周辺でも同じだ。大阪市・JR・曾根崎署によるシスコイ嫌がらせ・追い出しにも関わらず、この周辺で野宿する仲間

は減るどころか2〜3割増えてきている。政府や財界の金持ち連中は「景気が回復してきた」「黒字収支だ」といって喜んでるが、俺たちのまわりはいつもアプシ失業と仕事・生活の不安定さに満ち満ちている。その「景気回復」とやらが誰を踏み台にして「回復」してきたのか。「黒字」は「何」から搾り取ったのか。一部の持つものと多数の持たざるもの格差が激化するなかでも、はや答えはハッキリと出ているだろう。150年前の職工ブルドント曰く、「財産とは労働者である」と。

### 鞆公園自治会会長Yさん、今日釈放へ！

今日は3つのことを仲間たちに報告したい。一つめは、1月30日に鞆公園での行政代執行に抗して闘い、その渦中で逮捕・起訴・長期拘留されていた鞆公園自治会会長のYさんが今日ようやく保釈された。特就で働き野宿をしながら自治会を引っばって先頭で闘い続け、釜ハトや特就労働者がかんばって来たYさんが戦線に復帰することは、たいへん嬉しい。みんなで大歓迎しよう！

ようなひどい施設ばかりをつくり、無駄な金をつぎ込んでいます。いっぽうで公園や路上から野宿者を追い出すことにはかなり熱心になっています。地裁の判決が出たすぐあとに鞆公園・大阪城公園で強制排除を行い、また最近では天王寺公園の野宿の仲間が無理矢理同意書を書かせ、人が住んでいるテントをいきなり壊し、追い出すなどしています。

野宿者が生活保護の相談に行っても、住所がないことが理由で認めないという不当な対応をいまだにしています。数多くない仕事である釜ヶ崎での特別就労事業も、縮小して打ち切ろうとしています。年間20人以上が路上で死んでいっているにもかかわらず、こうした排除と人殺しをやめない大阪府は、野宿者の生きる権利を認めるべきです。みずからの手で毎年ますます多くの人を野宿に、路上死に追いやっておきながら、住民登録すら認めないというのは、責任のなげにほかなりません。

公園で住所が認められたからといって、野宿の問題がすべて解決するわけではありません。しかし、この裁判を通じて、私は野宿者があたりの権利をどれだけ奪われているのかということをおぼろげに知りました。大阪府がいまの態度をあらため、野宿者も人間であり、生きる権利があるのだ、という当然のことを理解し、受け入れることを望みます。

5月29日(月)朝8時半、扇町公園集合。

★北区福祉行動

6月2日(金)夜9時半集合。

★梅田・福島パトロール

(JR大阪駅中央改札口前集合)

6月4日(日)昼12時(炊事は9時から)

★仲間の日

★沖繩反戦交流会(夕方より)夕方5時扇町集合。

### 要署名を提出し、大阪府・市と団体交渉！

次に高齢者特別就労事業の拡大を軸とした「要署名」の提出行動と団体交渉の報告だ。

今日、雨でたいへんな中、30名の仲間が大阪府・市の庁舎に集まり、特就拡大などを求めて署名提出と団体交渉を闘った。まず雇用拡大については、「予算維持で精一杯」と答える一方で、「自立支援センターや就業支援センター、西成労働センター等と意見・情報交換しながら、国や民間への雇用拡大を求めていきたい」と返答があった。これは行政による仕事出し＝失業対策事業である「特就を軸」という従来の路線のなし崩し的な変更であり、民間への責任転嫁であるので、断じて認められない。さらなる声を集めて特就を軸とした失業対策・労働政策を求めていかなければならない。

また、「生活保護受給者排除」を目的とした調査への一律同意書を御断りし、「福祉フローカー」に「ハネハネ」を月1万円生活している受給者は特就の仕事にいかざるをえない」と訴え、同意書の変更を求めた。府の担当責任者は「いいやりかたがあれば提案してほしい」と返答があった。

特就開始から12年。特就への思惑が大阪府・市・センターとの間でかなり違ってきている印象も受けた。ヤツらは一枚岩じゃない。どこかに必ず突破口があるはずだ。みんなで知恵を出し合い、特就労働者にむけた団体交渉をハネにさらに陣形を整え、特就拡大を勝ち取ろう！

7・5扇町-全大阪-フランスをむすぶ連帯行動を聞おう！  
追い出しのための「相談会」許すな！ 7・2寄り合いへ！  
7・5持たざる者の抵抗-交流集会に参加しよう！

国で連帯行動が取り組まれている。国家と資本による暴力が国境なしに吹き荒れるなかで、地球の裏側の出来事を「わがごと」としてとらえる感性と行動もまた生まれ出つつあるのだ。  
フランスで4月の若者の首切り・使い捨てのための法案(初期雇用契約)を撤回に追い込んだ圧倒的な直接行動を支えたのは、こうした「持たざる者」の叫びだったといえる。かれらを関西に招き、フランスの状況と闘いについて学び、我々を取り囲む困難を打ち破っていくためのヒントをつかみ取ろう！ 海を越え、国境を越え、「持たざる者」たちの声を、いまこそひびかせよう！  
**我々はここにいますぞ！市庁へむけて進軍を！**

三つめに、大阪市への抗議行動である。1・30朝・大阪城公園での野宿者強制排除を決して忘れず、市内全域で追い出し/狩り込みをひろげる大阪府に対して怒りの声をみんなで叩きつけるぞ！ 来日中のフランスの持たざる仲間たちと共に大阪府役所に強制排除に抗議する署名を提出し、失業対策や社会保障の拡充、居住の権利を求めるオレたちの意志をキッチリ示そう。7月5日(水)、大阪市の「扇町相談会」を見据え、扇町公園から市役所へむけて出発する。ぜひ、参加を！

★スケジュール

- 7月2日(日)  
① 昼12時より、「仲間の日」  
※共同炊事は9時より開始(扇町公園テント村広場)  
② 昼2時より、扇町公園寄り合い  
7月3日(月)朝8時半、北区福祉行動

なかまたち！

このところ、巡回相談・ポリ、公園事務所・工務所などが不穏な動きを繰り返して、仲間たちに圧力をかけ、排除/收容への動きを強めている。1月30日におこなった朝・大阪城公園での行政代執行では、大阪市・警察による非情な強制排除のやり口に世論の非難が集中し、体を張って「命の誓いテント」を守って抵抗する仲間たちに熱い声援と連帯の行動がひろがった。やつら大阪市・ポリは作戦を変えてテレビや新聞で騒がれる前に、脅迫しながら「撤回同意書」にサインさせ、コンコンと追い出し/狩り込みを市内各地でやるといった手口に切り替えたわけだ。まったくどこまでも性根の腐った連中だ。

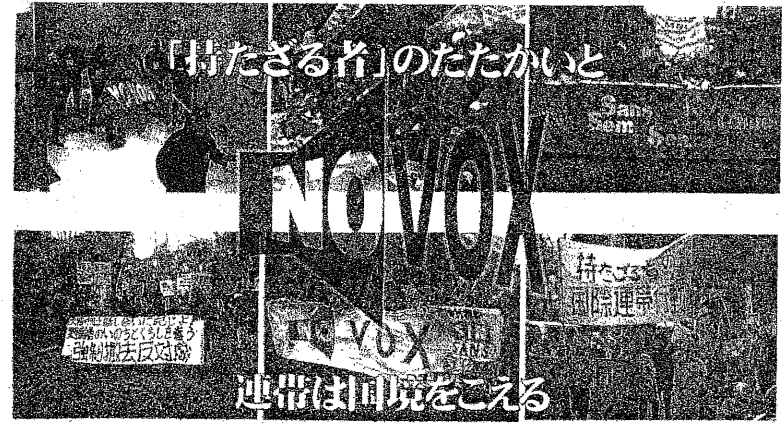
大阪市・ポリは、市内の駅や公園・路上から野宿者を「掃く」ゴミの島(舞島)へ追い込み隔離收容を進めている。やつら大阪市・ポリの汚い手口を徹底的に暴露し、やつらの悪意を叩き潰すために、釜パトはあつちの行動を提唱する。排除のための「7・5扇町公園相談会」反対！  
**7・2扇町公園寄り合いへ集まろう！**

一つは、大阪市による「扇町公園相談会」に対する取り組みである。29日、北部方面公園事務所が扇町公園の全テントに対して「自立にむけた生活相談や自立支援センター」入所等について、相談会を開きます。ご希望の方は、次の相談日に公園事務所までお越しください。相談会希望者の

- ※通院・入院したい仲間は扇町本部テントへ  
7月5日(水) 一日集中行動 ※参加者はメシあり  
① 午前より、「扇町相談会」に対する緊急行動  
② 午後より、市役所にむけて扇町公園を出発  
③ 夜6時半、持たざる者の交流集会(エル大阪)  
7月7日(金)夜9時半、梅田・福島パトロール  
※JR大阪駅中央改札口前集合

7・5関西交流集会  
『持たざる者』の抵抗-日本とフランス-  
2006年7月5日(水)18時30分よりエルおおさか5階研修室2  
(地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋」駅から徒歩300m) ※メシあり!

フランスからの参加者:  
ジャン=クロード・アマラ(Droits devant!!) / ブノワット・ビューロー(DAL)  
アニー=プール(NO-VOX) / ミゲル・バナサヤグ(Resister Malgre Tout)



れる方は「本人がお越しください」なる文書を配布した。自立支援センターやシェルターを出た仲間の多くが再び野宿している事実も、テント・小屋を奪われた仲間が路上死の一手前にあることも大阪府は知っている。やつら大阪市の目的はただひとつ。駅・公園・路上から野宿者を「掃く」。釜ヶ崎とゴミの島へ追い込むことだけだ。7月5日の「扇町公園相談会」も将来の追い出しのためのアリバイづくりの一端である。

「大阪市のホームレス政策の実態」と「7・5相談会をどうするか」を議題に、7月2日(日)「仲間の日」のあつち午後2時から扇町公園の全住民と市内各地の仲間たちへ呼びかけて寄り合いを開きたい。全ての仲間が「丸」になってやつら大阪市の悪意を叩き潰そう！

**7・5関西交流集会『持たざる者』の抵抗-日本とフランス-**にすべての仲間は参加しよう！

二つめに、7・5関西交流集会『持たざる者』の抵抗-日本とフランス-への参加を呼びかける。弱肉強食の資本主義の世間化(グローバリゼーション)が地球を覆いつくそうとする一方で、排除され声奪われた者たちが「持たざる者」と自らをづけ、立ち上がる動きもまた始まっている。朝・大阪城公園での野宿者強制排除に抗議して、フランス・パリの「持たざる」仲間たちが日本政府観光局を突如占拠して声を上げた。また、フランスで空き土地や空きビルを占拠して暮らす家族たちが「迫る強制排除の動き」に対し、各

### まだ見ぬ友へ！黙って野たれ死ぬな！団結し生き抜こう！ 大阪各地で越冬闘争突入！誇りをかけて闘おう！

**なかまたち！**

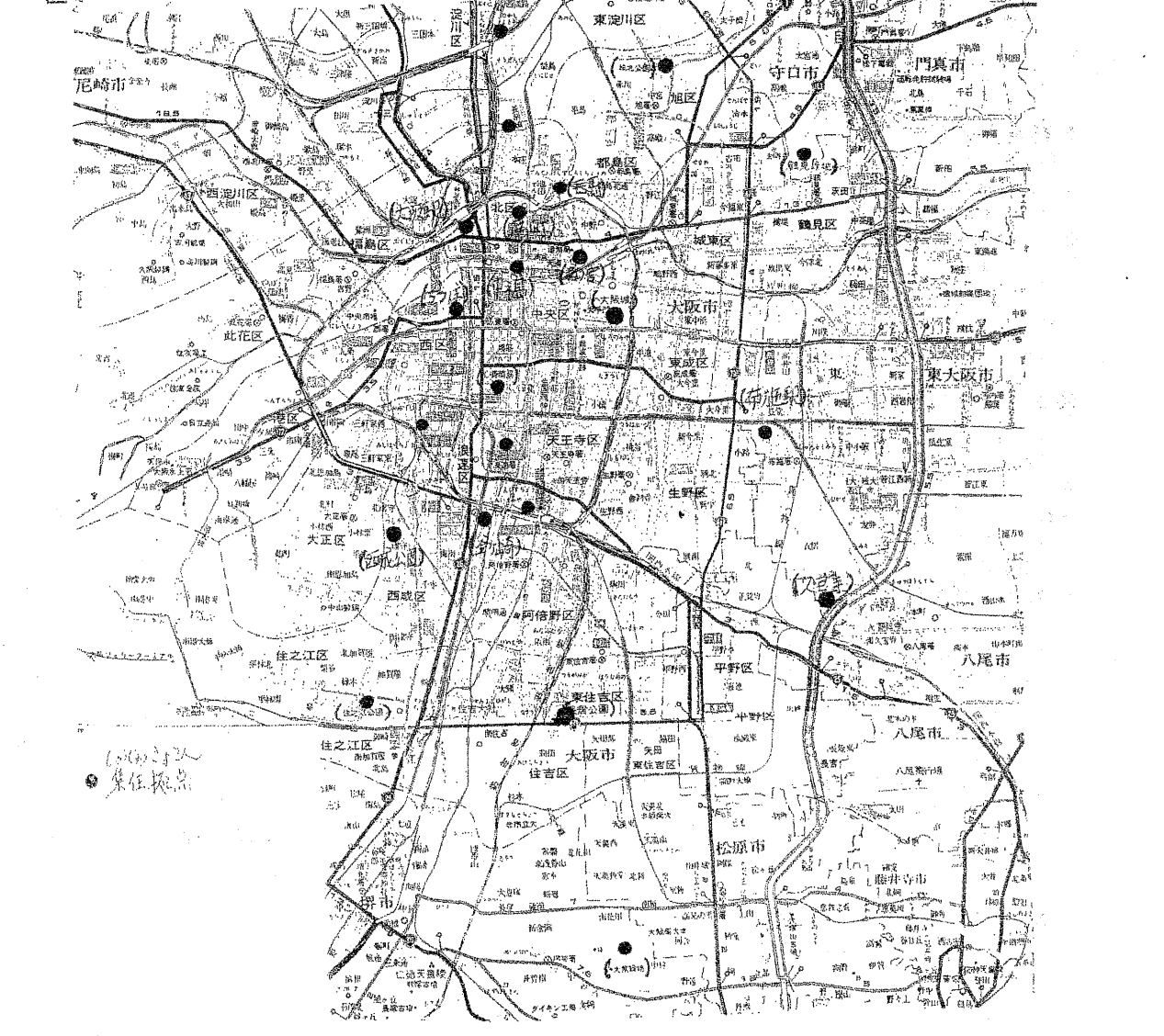
今年も厳しい冬が来た。大阪各地の路上でアオカンする仲間たち！日々の追い出しに抗して公園・河川敷・路上にテント・小屋やダンボールをはってがんばる仲間たち！夜間シェルターで雨露をしのがざるをえない仲間たち！「自立なんとか」の施設や行路病院での収容生活を余儀なくされている仲間たち！ケオチ手配師や悪質福祉ブローカーの手にかかり、保護費や賞金のピンハネ・不払いを被っている仲間たち！

記録的な大寒波はオレたちの体力を容赦なく奪い去る。失業と貧困・不平等と闘争を拡大する新自由主義「小泉構造改革」の下、大阪府・大阪市はそれをマネて「自己責任」「自立なんとか」と称して貧しい者への薄い生活保障をいっそう切り縮め、さらにどん底へ叩き落とす。寒化政策を進めて恥じない。毎年、大阪市内だけで200人以上の野宿の仲間が路上死を強いられ、瀕死の状態を病院に運ばれ死んだ仲間を含めると1000人を越える。そのほとんどが冬期に集中する。

オレたちは30数年前に先輩たちが叫んだ言葉を使って大阪全土の1万人同胞にむかって何度でも呼びかける。黙って野たれ死ぬな！生きてヤツらにやり返せ！大阪各地では、「仲間の命を仲間の手で守ろう」「団結こそ力だ」を合言葉にして、役所が閉まる年末年始を軸に越冬闘争を準備してきた。厳冬を逆手にとって団結し力を蓄えよう。生きて生き抜いて春をつかみ取ろう！誇りをかけて闘いに立ち上がろう！

12月28日(水)、大阪各地から集まる「全大阪越冬闘争突入集会・市庁押しかけデモ」(扇町公園で開催)を結節点に、前後して大阪の各地で越冬闘争に突入した。各現場の特色を活かした様々な取り組みが展開される。まだ見ぬ仲間たちとの団結を求めて、このピラが一枚でも多く仲間たちの手に届くことを願う！

- 1月2日(月)カラオケ(昼3時)  
【主催】長居公園仲間の会
- ★うつぼ公園  
1月7日(土)団結もちつき大会(朝から)  
【主催】うつぼ公園自治会
- ★西成公園  
1月1日(日)団結もちつき大会(昼12時)  
【主催】野宿者ネットワーク
- 1月2日(月)ぜんさいを食べる会(昼12時)  
【主催】西成公園より相談所
- ★大阪城公園  
1月3日(火)越冬交流会  
朝10時半から準備。12時開始。  
【主催】大阪城テントを守る会・よるず相談所
- ★釜ヶ崎  
毎日、炊き出し(四角公園)  
【主催】釜ヶ崎炊き出しの会  
医療・福祉相談(医療連事務所随時)  
【主催】釜ヶ崎医療連絡会議
- 12月29日(土)臨泊受付前ピラ撒き(朝8時)  
1月6日(金)机だし生活・労働相談(朝5時)  
【主催】高齢者特別就労組合準備会
- 12月25日(月)1月10日 釜ヶ崎越冬闘争  
越冬まつり・もちつき・炊き出しなど(三角公園)  
【主催】釜ヶ崎越冬闘争実行委員会
- 大阪市の越冬対策  
12月29日(土)30日(日)南港臨時宿泊所受付(市更相)  
朝5時から整理券配布。朝8日12時に受付。



### 大阪各地の越冬闘争スケジュール

- ★大阪キタ(扇町公園)  
12月28日(水)1月4日(水)  
大テントでの集団野営(1月4日朝まで)  
炊き出し集会(昼1時)街頭カンパ活動(昼3時)  
パトロール活動(朝10時・夜9時)  
報告会・映画会(夜6時)
- ※イベントや闘争と重なる場合は変更あり。
- 12月29日(木)130日(金)  
南港臨時宿泊所受付(朝5時 中央郵便局集合)
- 12月31日(土)紅白を見る会(夜6時)
- 1月1日(日)越冬まつり・団結もちつき大会(朝から)
- 1月4日(水)※以降、毎週月曜日、福祉行動  
北区福祉行動(朝8時半集合)
- 1月8日(日)以降、1月中の毎週日曜日  
炊き出し集会(昼1時)
- 【主催】大阪キタ越冬闘争実行委員会
- ★布施駅  
12月30日(金)鶴見・久宝寺パト  
朝10時半、鶴見緑地公園西南・緑地橋交差点集合
- 12月30日(金)越冬交流会  
夜8時、布施駅南バスターミナル電光温度計前集合  
【主催】布施夜回り準備会
- ★長居公園  
12月29日(木)長居周辺ピラ撒き(夜10時)
- 12月30日(金)  
団結もちつき大会(朝10時)カラオケ(昼3時)
- 12月31日(土)  
カラオケ(昼3時)年越しそば(夜7時)  
紅白を見る会(夜8時)
- 1月1日(日)13日(火)炊き出し(夕方5時)

# 1ヶ月におよぶストーカー行為に反撃→逮捕!?

## 大阪府警はK君をただちに釈放しろ!

あらすじ

K君は、1ヶ月ほど前からストーカー被害に悩まされていました。自宅のまわりを怪しい人物がうろつき、見張っているのです。朝出かけるとき、帰ってくるときに監視され・・・不気味です。友人にも相談しましたが、なかなかうまく解決策は見い出せません。

近所の人に聞いたらしばしばアパートの玄関を開け、郵便物までチェックしているようなのです。気持ち悪すぎ。おちおちゴミも捨てられやしません。

怪しい人物の行為はだんだんエスカレートし、なんと外出するときまで後ろをついてくるようになりました。不気味なことこの上なく、K君はすっかり精神的にまいってしまいました・・・

そして2006年7月31日。なにが起こったのか、朝からどンドンストーカーの数が増えていくのです。ふたり、3人、4人・・・5人になりました。外に出れば、その人数でつきまってくるのです。いったい何が起ころのでしょうか。

とうとう、K君はそのうち1人の若い男に「何でついてくるんだ」とたずねました。でも答えません。いいかげんにして、という思いと1ヶ月間の怒りが爆発し、K君はそいつを追っかけました。少々勢いあまった追っかけ方だったようですが、別ににも手出しはしていません。ぶんなくったわけでもありません。びびったのか、男は逃げていきました・・・

1時間後。買い物に出たK君は、路上で若い男の仲間たちに囲まれ、連行されました。仲間たちは、武器も持っているようです。とうてい抵抗できません。手錠で縛られ、車に押し込まれ、K君はいったい、どこに連れていかれてしまうのでしょうか。

### K君をかえせ!

私たちの友人であるK君は、7月31日に大阪市北区の路上で「脅迫の現行犯」で逮捕されました。1ヶ月間にもわたる大阪府警本部公安三課の自宅張り込みと密着尾行というストーカー行為に対し、腹にすえかねて「反撃」したのが理由です。翌日には同容疑での自宅捜索が行われました。担当検事は8月2日に拘留請求を行い、裁判所は不当にも10日間の拘留と接見禁止処分を認めました。K君は現在も曽根崎警察署に拘留され、連日の取り調べを受けています。ストーカー被害者がいったい何を「調べる」必要があるのか、まったくの謎ですが、接見禁止処分によりK君は弁護士以外の人と会うことすらできないという状況です。

私たちは、まずなによりもK君の即時釈放を求めます。ストーカー行為で罰せられるべきは、フカガワカズノ(刑事(30歳、K君を追っかけられた人物)、ミツイ刑事をはじめとする公安三課の面々です。

### 盾突くやつには何やってもOK?

なぜ、K君がこのような仕打ちを受けなければいけないのでしょうか。

公安刑事がつきまわっていた理由は、31日からの皇太子ナルヒト来阪・高校総体出席のための「警備」だと思われま。以前から天皇制に反対する取り組みに関わってきたK君は、今回特に行動を予定していなかったにもかかわらず、警察のターゲットとされたのです。反天皇制運動に取り組む他の人々に対しても、このがん大阪府警による尾行や張り込みが行われていたことが明らかになっています。

公安警察にとって、天皇・皇族の来訪はみずからの存在意義をアピールする絶好のチャンスです。天皇・皇族が国体・高校総体・植樹祭・海づくり大会といった年次イベントのために各地を訪問するたび、日本中いたるところで「警備」の名のもとによる嫌がらせや人権侵害行為が繰り返されてきました。天皇制に反対する人々やデモに対する弾圧だけでなく、街中に制服・私服の警官があふれ、「異物」とみなした人々を排除・警戒する動きが強まります。1997年の大阪国体の際には大阪市・大阪府警による野宿者排除が大阪城公園や長居公園で画策されました。

「国民統合の象徴」たる天皇制は、その裏で「まつろわぬ人々」「非国民」を陰湿かつ暴力的に排除することのうえにしか成り立たないものです。そんなものに私たちは「統合」されたくありません。

「非国民」は、作り出されるものでもあります。「天皇制に反対する輩に対しては何をやってもかまわない」と言わんばかりの警察・検察の無法は従前からのものですが、特に911以降、至るところで政府・警察・マスコミが「テロ・犯罪」の恐怖をあおり立て、「テロリストや犯罪者」とされた人々に対してはたとえ殺しても許されるというような、この世界を覆う空気が重くなってきているのではないのでしょうか。反戦ビラを入れたり、警察の横暴に抗議しただけで逮捕されてしまうようになったこの国では「いつか来た道」でもあるわけですが。

### 「敵が敵がとわめいているやつ、そいつこそ敵」

しかし、おかしいものはやはりおかしいのです。だいたい、大阪府警にK君をぶち込んだり取り調べたりする資格な

ど、道義的にもないのです。

実は公安三課は2年前にもK君を逮捕しているのですが、このときはK君が関わる野宿者支援運動つぶしが目的でした。仕事さがしや年金受給のために野宿の仲間アパートの住所を貸していたことが「犯罪補助」だとしていきなり逮捕・家宅捜索されたものの、あまりに無理がありすぎてすぐ釈放、不起訴になりました(この事件をきっかけにして、取り調べを受けた野宿の仲間が「じゃあ現住地で登録させてよ」と扇町公園テントで住民登録を求める裁判闘争が開始。今年1月に大阪地裁で画期的な勝訴判決が出ました)。

釈放後も公安三課はK君周辺をうろつき、扇町公園で行われたイラク戦争に反対する集会に参加したK君や友人たちを監視。そこでK君がマイクを取り、取り調べでのミツイ刑事の与太話を披露。「オンの親父はもと日本共産党。でも食えなくて警官になった。オレには共産党の血が流れているから、おまえらの先輩や!」と言ったという意味不明発言にみんで失笑していると、ミツイほか数名が逆ギンして叫びながらつかみかかってくる(本気で)という醜態を演じました(動画と経緯がこのURLで見られます。釜パト動画分室: <http://page.freett.com/kamapat/mov/040320.html>)。今回の事件も、長引けば長引くほど、大阪府警の失態に新たな1ページを付け加えることにしかならないでしょう。

かれらに、モラルなどありません。ただ、自分たちの飯のタネに「敵」を必要としているにすぎません。しかし標的にされたものはたまったものではありません。

もう、こんなことはうんざりです。私たちはいろいろなものを奪われすぎており、多くのものを必要としていると思います。庄政からの自由、貧しさからの自由、競争からの自由、恐怖からの自由、この息苦しさからの自由・・・ただそれが、はびこるケーサツでもテンノーでもコッカでもないことだけは確かです。

K君をはやくかえせ!

2006.8.4

K君をかえせ! 7・31弾圧救援会

### <お願い1>

不当な弾圧に対してK君は現在、黙秘でがんばっています。体調は今のところ大丈夫とのことですが、早期釈放をかちとるために警察・検察へ抗議を送っていただければ幸いです。

【抗議先】 曽根崎警察署 06-6315-1234 (代表)  
大阪地方検察庁 06-4796-2200 (代表)

### <お願い2>

現状では接見禁止がついているため弁護士しか会いに行くことができず、また拘留の不当性を訴え釈放を求める法的取り組みなども含めて費用がかかることが予想されます。

どうか、余裕のある方はカンパにご協力いただければ幸いです。  
【振込先】 郵便口座: 00930-6-139747 (大阪キタ越冬実名義)

### <お願い3>

救援会への団体・個人賛同をつのります。公表してもかまわないという方はぜひご協力ください(ビラ、ウェブサイトで公開させていただきます)。

団体の場合は団体名、個人の場合はお名前(ペンネームでも可)と肩書き(あれば)を下記の宛先までお送りください(e-mailがありがたいです)。

一言添えていただければ弁護士を通じてK君へも届けます。

K君をかえせ! 7・31弾圧救援会

連絡先: 090-9700-0296 / 06-6374-2233 (FAX) / [kamapat@infoseek.jp](mailto:kamapat@infoseek.jp)  
(釜ヶ崎パトロールの会気付)